VAULT[®] 導入ステップガイド

クラウドバックアップ・クライアント編

本文書のご利用にあたって

本文書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、 改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き禁止されています。本文書内の社名、製品名は各社の商標又 は登録商標です。本文書の内容は2013年1月31日現在のものです。

※本文書で使用している情報及び画像は本文書執筆時点のものです。そのため、最新版の製品および製品 Web サイトと文言やデザイン等が異なる場合がございます。

目次

はじめに ・・・・・・	1
-------------	---

1 インストール前の確認事項	 3
システム要件	 4

2	インストール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	VVAULTをダウンロードする	• 6
	Microsoft .NET Framework 3.5 SP1をインストールする	• 7
	▼ Windows Server 2008 R2ヘインストールする場合	• 7
	VVAULTをインストールする	. 9
	VVAULTインストール後のOSログイン画面について	13
	VVAULT管理ツールのログイン方法について	14
	OS自動ログインおよびVVAULTUserの非表示設定について	16

3	初期設定	19
	管理ツールにログインする	20
	レポートメールの送信先を設定する	21

4	仮想ドライブを構成する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
	▼ 仮想ドライブを共有する場合	24
	管理フォルダーのデータを統合する	25
	仮想ドライブをマウントする	26
	仮想ドライブを共有する	27
	フォルダーのアクセス権を設定する	29
	▼ 既存の共有フォルダーを移行する場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
	対象フォルダーの共有設定を解除する	34
	対象フォルダーを構成ストレージとして追加する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
	仮想ドライブをマウントする	39
	対象のフォルダーを共有する	40
	▼ 既存の共有ドライブを移行する場合	43
	対象フォルダーの共有設定の解除する	44
	対象フォルダーのアクセス権を設定する	46
	対象フォルダーを構成ストレージとして追加する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
	仮想ドライブをマウントする	50
	対象のフォルダーを共有する	51

5	バックアップを構成する	55
	▼ ローカルバックアップ	· 56
	バックアップストレージを追加する	· 56
	バックアップを開始する	· 57
	▼ クラウドバックアップ	· 58
	バックアップサーバに接続する	· 58
	バックアップを開始する	• 59
	▼ タイムマシーン	• 61
	タイムマシーン機能を有効にする	• 61
	バックアップの状況を確認する	· 62

6	データを復元する	63
	▼ 構成ストレージのデータを復元する場合	· 64
	ストレージリカバリを実行する	· 64
	▼ 全てのデータを復元する場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 65
	バックアップサーバへ接続する	• 65
	復元先のストレージを追加する	· 66
	権限引き継ぎの準備をする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 67
	システムリカバリを開始する	· 68
	▼ ファイルを個別に復元する	· 69
	復元元のソースを選択する	• 69
	復元対象となる日時を指定する	• 69
	対象のファイルを復元する	· 70
	復元状況を確認する・・・・・	· 71

7	管理フォルダーの構成を解除する・・・・・・	73
	▼ 管理フォルダーにアクセスする	· 74
	1. Windows Server 2008 / 2008 R2、Windows Vista / 7の場合	• 74
	2. Windows Server 2003 R2 の場合	• 76
	3. Windows XPの場合	· 79
	▼ 仮想ドライブが有効な場合の手順	· 81
	共有されているフォルダーの共有を解除する	· 81
	仮想ドライブのセキュリティ情報を保存する	· 83
	仮想ドライブ上のフォルダーを別ドライブへ移動する	· 83
	移動先のフォルダーにセキュリティ情報を復元する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 84
	移動先のフォルダーに共有設定を復元する	· 84

▼ 仮想ドライブが無効な場合の手順	86
管理フォルダーのデータを統合する	86
個別にセキュリティ情報を構成する	87
共有フォルダーの共有設定を構成する	87

8	セキュリティ対策ソフトを設定する	89
	セキュリティ対策ソフトを設定する	90
	Symantec Endpoint Protection 12 の設定方法	90
	ウイルスバスター コーポレートエディションサーバ バージョン10.6 の設定方法	92
	McAfee VirusScan Enterprise 8.7iの設定方法	94

9	アンインストール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	97
	VVAULTをアンインストールする	98

10	補足	101
	共有フォルダーにSYSTEM権限を追加する	· 102
	Windows XPでのVVAULT ルート証明書の登録手順	·104

はじめに

本文書は、株式会社オレガが保有するソフトウェアであるVVAULTを使用して、クラウドバックアップサービスにファイル サーバのデータをバックアップするための手順書です。

本書の適用範囲

- 本文書は、クラウドバックアップサービスへのファイルサーバのデータバックアップに関する部分のみを対象範囲とし、その他の機能・設定については含まれません。
- 本文書の内容は設定・操作手順を中心とするものであり、製品やサービスの内部構造に関わる設計及び構造に関しては原則として含まれません。
- ・本文書の設定・操作手順はサーバOSを前提としたものであり、PC OSには対応していない場合があります。



VVAULT 導入ステップガイド [クラウドバックアップ・クライアント編]

システム要件



OS をアップグレードする際にはご注意ください

既に本製品がインストールされたコンピューターの OS を下記のいずれかにアップグレードした場合、本製品が互換性のないアプリケーションとして認識され、削除された状態となります。 現在、下記 OS に対しては新規インストールのみの対応となりますので、ご注意ください。

- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows Storage Server 2012

Intel x86、x64 互換プロセッサ(Core 2 Duo 2GHz 以上推奨)
PC OSWindows Home Server 2011 (64bit)Windows 8 (32bit \checkmark 64bit) \approx 1Windows 7 (32bit \checkmark 64bit)Windows Vista (32bit \checkmark 64bit)Windows Vista (32bit \checkmark 64bit)Windows XP (32bit)
※ 1:Windows 8 に VVAULT をインストールする場合、「Administrator」アカウントは使用できません。「Administrator」以外のアカウントでインストー ルしてください。 ※ 2:ReFS 形式でフォーマットされたストレージに VVAULT をインストールすることはできません。構成ストレージとして追加することは可能です。
1GB 以上(2GB 以上推奨)
500MB 以上の空き容量 ※インストール後は、仮想ドライブで使用するコンテンツ数によって仮想ドライブ/ライブバックアップ DB データ保存先のサイズも増減しますので、ご利 用の環境に合わせて適切な空き領域を確保してください。目安としては、DB データ保存先別に 100 万コンテンツで 2.1GB 程度の容量が必要です。
Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 Microsoft .NET Framework 3.5 日本語 Language Pack SP1
Internet Explorer 8 以降 (解像度: 1024 × 768 推奨)
ドメイン(ドメインコントローラ、ドメインメンバ) ワークグル <i>ー</i> プ

※Windows XP でクラウドバックアップ機能を利用するには、VVAULT のルート機関証明書を手動でインストールする必要があります。 ※クラウドバックアップ機能は、プロキシサーバ経由の接続には対応しておりません。



注意事項

VVAULTの仮想ドライブに移行した共有フォルダは、条件によっては元のドライブより速度が低下する場合があります。



VVAULT 導入ステップガイド [クラウドバックアップ・クライアント編]

step 1 VVAULTをダウンロードする

VVAULT 製品サイト (http://vvault.jp/download/)にアクセスし、インストールする環境に応じたインストーラをダウンロードして ください。



 インストールする環境に応じて32bit 版、または 64bit 版のインストーラをダウンロードしてください。



注意事項

クラウドバックアップをご利用の場合、バックアップサーバ側のバージョンによって、クライアント側で最新のインストーラが利用できない可能性があります。互換性のあるバージョンのインストーラを選択してください。

どちらのインストーラを使用してよいか分からない場合は、以下を参考にしてください。

■ Windows Server 2008 R2/Windows Storage Server 2008 R2/Windows Small Business Server 2011/Windows Home Server 2011 をご使用の場合

64bit 版のインストーラをご利用ください。

■ Windows Server 2008 をご使用の場合

- 1. 「スタート」 ボタンをクリックします。
- 2. 「コンピューター」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。
- 3.「システム」の下にシステムの種類が表示されますので、それにあわせたインストーラをご利用ください。

Windows Server 2003 R2 をご使用の場合

- 1. 「スタート」ボタンをクリックします。
- 2. 「マイコンピュータ」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。
- 3.「システム」の下に「x64 Edition」が表示されていない場合は32bit 版のインストーラをご利用ください。

※ Windows Server 2003 R2 に関しましては 64bit 版をサポートしておりません。

STEP 2 Microsoft .NET Framework 3.5 SP1をインストールする

「STEP1 VVAULT をダウンロードする」の手順でダウンロードした 「VVAULT-Setup ~.exe」を実行すると、「Microsoft .NET Framework 3.5 SP1」がインストールされていない環境では、以下のセットアップ画面が表示されます。「インストール」をクリックし てインストールを実行してください。



「インストール」をクリックして、インストールしてく ださい。インストール後はマシンを再起動してくだ さい。

ネットワークに接続できない環境でインストールする場合 ネットワークに接続できない場合は、以下のURLより別途インストーラをダウンロードして下さい。 http://www.microsoft.com/downloads/ja-jp/ details.aspx?familyid=ab99342f-5d1a-413d-8319-81da479ab0d7

▼ Windows Server 2008 R2 ヘインストールする場合





ੋੋ まいき加ウィザード インストール オプシ	× つつの確認
機 能 確認 進行状況	(次の投資)、役割サービス、または確認をインストールするには、【インストール】をグリックしてください。 (1) 次の11年の情報メッセージ
結果	 ④ インストールの売 71歳に、このサーバーの再起動が必要になる場合があります。 ◆ .NET Framework 3.5.1 の概範 NET Framework 3.5.1
	この情報を印刷、電子メールで送信、また対応在
	<前へ(2) ※へ(3) > 【シストール印】 キャンセル

標能の追加・	ウィザード	
	インストールの進行状況	
根能	次(0役割、役割サービス、または機能をインストールしています:
確認		.NET Framework 3.5.1 の標能
進行状況		
結果		
		8
	2	インストールしています
		<前へ(E) 次へ(U) > インストール(D) キャンセル



5	機能の選択にて「.NET framework 3.5.1」を選択
	します。



6 「次へ」ボタンをクリックします。



7 「インストール」ボタンをクリックします。



インストールが始まります。



インストールが正常に完了すると表示される「閉じ る」ボタンをクリックして「.NET Framework 3.5 SP1」のインストールを終了します。



😋 🔵 🗸 🗼 yoshimura 🕨	ダウンロード	▼ 49 ダウンロードの検索 り
整理 ▼ ライブラリに追加 ▼	共有 マ 新しいフォルダー	E • 🗍 🛛
 ☆ お気に入り ※ グウンロード ※ グウンロード ■ おえるトップ ③ お出表示した場所 ※ ライブラリ ※ ドキュメント ※ どクチャ ビデオ ④ ミュージック 	VXULT-Setup- x64-2.03	
 マンピューター ローカルディスク(C:) ボリューム(E:) ボリューム(F:) ボリューム(F:) ボリューム(F:) ボリューム(F:) ボリューム(I:) ボリューム(I:) アリコーの(I:) POIDののC 		
1 個の項目		



VVAULT - InstallShield Wizard	×
使用許諾契約	
次の製品使用許諾契約を注意深くお読みください。	
	-
いっしょうは国教教教会者	-
ソフトワェア使用計諾契約書	
本ソフトワエアの使用者(以下、「甲」といいます)は、甲がワイセンス領 認憲商上の「同音する」たケリックするアレビート』 様式会社オレガ(以下	E
	<i>,</i>
ム」といいま 3 び運用マニュアル等の関連資料(以下、「本件資料」とい	、
います、本件プログラムと本件資料を合わせて「本件リフトウェア」といいる	
使用許諾契約の全条項(こ同意します(A) 印刷(0
○ 使用許諾契約の条項に同意しません(D) 4	
InstallShield	
< 戻る(B) 次へ (N)> キャン	њт
	<u> </u>



ダウンロードしたインストーラをダブルクリックし、
 インストーラを起動します。

※ドメインメンバのマシンにインストールする場合は、ローカルの 管理者アカウントでログインしてから実行してください。



インストーラのウィザード開始画面にて「次へ」ボ タンをクリックします。



使用許諾契約画面にて内容を確認し、「使用許諾契約の全条項に同意します(A)」を選択します。



「次へ」 ボタンをクリックします。

VVAULT – InstallShield Wizard	×
機能の選択 インストールする機能を選択します。	
インストールする機能を選択してください。インストールしない ■ ✓ ✓ ✓ 𝒴 𝔄 (反想) ドライブ ■ ⑦ (反想) ドライブ ■ ⑦ ライブ バックアップ ■ パックアップサーバ	※能は、選択を解除してください。
	ます。
必要な容量: 219.21 MB(ドライブC) 使用できる容量: 27422.95 MB(ドライブC) InstallShield	5
	< 戻る(B) 次へ (N)> キャンセル

VVAULT – InstallShield Wizard	×
インストール先の選択 ファイルをインストールするフォルダーを選択してくださ	n. 🔰
ブログラムのインストール先を入力します。新しいフ インストール先を検索することができます。	ォルダー名を入力するか、「参照」体などをかっかして新しい
C#Program Files#VVAULT	
	参照(<u>R</u>)
InstallShield	6
	< 戻る(B) 次へ (N)> キャンセル

VVAULT - InstallShield Wizard	×
仮想ドライブDBデータ保存先フォルダの選択	and the second se
仮想ドライブDBデータ保存先フォルタを選択して下さい。	Common Statements
必ず空のフォルタを選択してください。	
ハット・モナーのション・ション・ション・	(1)/ 七々()
イノストール元のトライノに主き各重が十万のることをご覧	1521/CC16
D#Program Files#VVAULT	
	参照(<u>R</u>)
	7
InstallShield	
	< 戻る(B) 次へ (N)> キャンセル



5

機能選択画面にて「仮想ドライブ」「ライブバック アップ」を選択し「次へ」ボタンをクリックします。

6 プログラムのインストール先を指定 (通常は規定の ままで問題ありません)し、「次へ」ボタンをクリック します。



仮想ドライブDB データの保存先を指定し、「次へ」 ボタンをクリックします。

※仮想ドライブ上の属性情報が保存されますので、信頼度の高い 保存先を選択してください。また、仮想ドライブにて管理されるフ ァイル数によって使用する容量が変動しますので、十分な空き容量 のある場所を選択してください。

容量の目安については「システム要件(P.4)」を参照してください。



ライブバックアップDB保存先を指定し、「次へ」ボタンをクリックします。

※ローカルバックアップを併用する場合は7の仮想ドライブDB保 存先とは別のドライブを選択してください。クラウドバックアップ のみをご利用の場合は特に変更する必要はございません。

VVAULT – InstallShield Wizard	×
インストール準備の完了 インストールを開始する準備が整いました。	
[インストール] をクリックしてインストールを開始してください。	
インストール設定を確認または変更する場合は、「戻る」 をワックします。ウィサートを終了す? します。	るには、[キャンセル]をりりック
9	
InstallShield	
< 戻る(B) (1721-	4+>>t/L

VVAULT - InstallShield Wizard	×
セットアッフ° ステータス	A.
InstallShield Wizard は VVAULT をインストールしています	
C¥Program Files¥VVAULT¥jre¥lib¥rt.jar	
Instalioniela	キャンセル

🕶 Windows セキュリティ	X
このデバイス ソフトウェアをインストールしますか?	
名前: EldoS Corporation 発行元: EldoS Corporation	11
E "EldoS Corporation"からのソフトウェアを常に信頼する (A)	
信頼する発行元からのドライバー ソフトウェアのみをインスト ウェアを判断する方法	ールしてください。安全 <u>にインストールできるデバイス ソフト</u>





10 インストールが始まります。

※途中、コマンドプロンプト画面が表示されますが、自動的に終了 しますので、特に操作は行わないでください。

11 インストール途中で「このデバイスソフトウェアを インストールしますか?」というダイアログが表示 された場合は「インストール」ボタンをクリックしま す。

> ※仮想ドライブを利用するために必要なソフトウェアです。再イン ストールの際には表示されない場合があります。



12 「次へ」ボタンをクリックします。



13	「完了」ボタンをクリックし、コンピューターを再起
	動するとインストールが完了します。
	※VVAULTは再起動後にご利用可能となります。

補足 1 VVAULTインストール後のOSログイン画面について

VVAULT のインストールにより、OS に「VVAULTUser」というアカウントが追加されます。そのため、下図のようにOS 起動後のログ イン画面に「VVAULTUser」が表示されます。また、パスワード未設定により自動ログインされていた環境ではVVAULTインストール 後、ログイン画面が表示されるようになります。





2 OS を操作するには、「VVAULTUser」以外のアカ ウントを選択してログインします。 左図では「俺我太郎V」というアカウントがOS イ ンストール時に設定した管理ユーザとして存在して いますので、このアカウントを選択します。

> ※自動ログインもしくはログイン画面で「VVAULTUser」を非表示 にする場合は、後述の「OS 自動ログインおよびVVAULTUser の非 表示設定について(P.16)」を参照ください。

補足 2 VVAULT管理ツールのログイン方法について

VVAULTの管理ツールにログインするには、OS に登録されている管理者のアカウント名およびパスワードが必要です。ただし、実際の アカウント名と表示されている名称が異なる場合がありますので下記手順に従い、管理ユーザーのアカウント名を確認し、管理ツール にログインします。



🔤 コマンドプロンプト 5
U:¥>net localgroup Administrators エイリアフター - administrators
コメント コンビューター/ドメイン(J
メンバー
Administrator () 俺我太郎
コマンドは正常に終了しました。



管理アカウント名が表示されていますので、確認します。
 なお、デフォルトでは「Administrator」ではログインできません。
 左図では「俺我太郎」が有効な管理アカウント名です。

VAULT [®] Administr	ration
アカウント名: 俺我 太郎	
パスワード:	
	ログイン

7 VVAULT 管理ツールのログイン画面を表示し、「ア カウント名」に6にて確認した管理アカウント名と、 「パスワード」にアカウントに設定されているパスワ ードを入力します。

※漢字名称の場合でも、そのまま指定してログインすることができます。また、パスワードを設定していない場合は空白のままとしてください。



「ログイン」ボタンをクリックして、VVAULTの管理 ツールにログインします。

補足 3 OS自動ログインおよびVVAULTUserの非表示設定について

VVAULT をインストールすることによってOS のログイン画面に表示される 「VVAULTUser」を非表示にするため、管理アカウントに て下記の手順に従い、「Users」グループから 「VVAULTUser」を削除します。

アクセサリ		
 ■ コマンド プロンプト ↓ サウンド レコーダー 	<i>(</i>	(O) 特徴 オレレーテロ((A))
🔒 はじめに 7回 ファイル名を指定して実行	V	E 注着 2 じ C 美行(A) ファイルの場所を開く(I) ちっちょい
■ プロジェクターへの接続 Ø ペイント		ダスクノーに表示する(N) スタート メニューに表示する(U)
 二) メモ帳 10 10		以前のバージョンの復元(V) 送る(N) ・
□ ワードパッド ♂ 数式入力パネル		辺り取り(T)
 副 電卓 ③ 同期センター 		コピー(C) 削除(D)
🍖 付箋 퉬 Tablet PC		名前の変更(M) プロパティ(R)

Microsoft Windows [Version 6.1.7601] Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserve

:¥Windows¥system32>net localgroup Users VVAULTUser /DELETE コマンドは正常に終了しました。 「スタート」>「すべてのプログラム」>「アクセサリ」 >「コマンドプロンプト」を選択し、右クリックメニ ューより「管理者として実行」を選択してコマンド プロンプトを開きます。

※Windows XP の場合は「管理者として実行」する必要がありま せんので、「コマンドプロンプト」をそのまま選択してください。



コマンドプロンプトにて、下記コマンドを実行して、 VVAULTUserをUsersから削除します。

net localgroup Users VVAULTUser /DELETE

上記設定にて、OSのログイン画面で [VVAULTUser]が非表示となります。Windows XP、Windows Vistaでは、この操作でVVAULTイ ンストール前と同様の動作となります。

Windows 7 で はOS の ロ グ イ ン 画 面 で VVAULTUser の表示はされなくなりますが、 VVAULTインストール前にパスワード未設定によ り自動ログインが実現できていた場合でも、OS の ログイン画面が表示され、自動ログインすることが 出来ません。

自動ログインするには続きの手順にて設定します。

🚾 管理者: コマンド プロンプト

Windows 7 にて OS の自動ログインを有効にする場合は、下記の手順に従って設定します。





VVAULT 導入ステップガイド [クラウドバックアップ・クライアント編]

step 1 管理ツールにログインする

レポートメール送信機能を利用することで、障害情報等を設定したメールアドレスに通知することができます。 予め、送信先のメールアドレス側で、メールが受信できる状態であることを確認してから設定を行ってください。

	VAULT [®] Administration
L	アカウント名:administrator パスワード: ●●●●●●●
	© OREGA Inc. All Rights Reserved.

コンピューターの管理者権限を持つユーザーアカ ウントとそのパスワードを入力し「ログイン」ボタン をクリックします。



ブラウザの設定について

VVAULTの管理画面を利用するにはブラウザの設定を追加する必要があります。設定を追加するには、「コントロールパネル」の「インターネットオプション」より「インターネットのプロパティ」を表示し、「セキュリティ」タブの「信頼 済みサイト」にアドレスを登録する必要があります。



step 2 レポートメールの送信先を設定する

レポートメール送信機能を利用することで、障害情報等を設定したメールアドレスに通知することができます。 予め、送信先のメールアドレス側で、メールが受信できる状態であることを確認してから設定を行ってください。







メールの設定項目を入力します。

※入力後は「送信テスト」ボタンをクリックし、正常にメールが送信 されるか確認することを推奨します。

3 「適用」ボタンをクリックし、設定を保存します。

レポートメールが送信されるイベント

本システムでは、障害を含む以下のイベントが発生した場合に、設定されたメールアドレスにレポートメールを送信します。

- ・ストレージの使用容量が全体容量の80%を超えた場合、またはその状態が解消された場合
- •ストレージへの接続ができなくなった場合、またはその状態が解消された場合
- •ストレージの取り込み、及び取り外しの処理が完了した場合
- •バックアップデータの初期化処理が完了した場合
- ・システムリカバリが完了した場合
- バックアップサーバへの接続ができなくなった場合、またはその状態が解消された場合
- •バックアップサーバとのデータ整合性不一致を検出した場合
- ・バックアップサーバとのAPI バージョン不一致を検出した場合
- 不整合ファイル、ライブリカバリ保留ファイルを検出した場合
- ・ ライセンス有効期限に近づいた場合
- •メールの送信テストを行った場合

21



VVAULT 導入ステップガイド [クラウドバックアップ・クライアント編]

想定する構成について

下図のように仮想ドライブを設定し、仮想ドライブを共有フォルダーとして公開する手順について説明します。この手順は、既存の共有 フォルダーに変更を加えず、仮想ドライブを新規の共有フォルダーとして利用することを想定しています。既存の共有フォルダーを仮 想ドライブに移行する手順については「▼既存の共有フォルダーを移行する場合(P.33)」「▼既存の共有ドライブを移行する場 合(P.43)」を参照してください。











ストレージ追加 追加するストレージの情報を入力して決定ボタンをクリックしてください ※管理対象バスに仮想ドライブで公開している共有フォルダは指定しないでください 3					
種類 : 最速ストレージ ▼					
ストレージ名* : share2					
管理対象パス*: C:¥share2					
×					
ネットワークストレージへの接続					
□ ユーザ名とパスワードを使用する					
ユーザ名 : PC名(またはドメイン名)¥ユーザ名					
決定 キャンセル					

エクスプローラから、「share2」という名前でフォル ダーを新規作成します。



3 「ストレージ追加」のサブウィンドウにて、「ストレージ名」に"share2"を「管理対象パス」に "C¥share2"を「種類」については適当なものを選択してください。不明な場合は「最速ストレージ」で 問題ありません。





VAULT Administratio				1	710 DØP9H
仮想ドライブ	ライブバックアップ	障害・警告情報 0	システム設定		
S+ S+			仮想ドライ	フ Unmount ティアリング	ON C
E 🥪 VVAULT (V:)	VVAULT (V:)			適用	元に戻す
 ・ ・ ・					
■ 🧼 share 2	😑 仮想ドライブはアンマウン	Fantuist			











します。

「仮想ドライブ」タブメニューの仮想ドライブ: [Unmount]をクリックし仮想ドライブをマウント

3 依存関係のあるサービスを再起動する旨のメッセ
 ージが表示されますので「OK」をクリックします。

仮想ドライブが起動すると「Mount」の状態となります。

エクスプローラより「コンピューター」を開いて、仮
 想ドライブがマウントされていることを確認します。



ディスクタイプについて

仮想ドライブのディスクタイプはデフォルトで「固定ディスク」となっています。 セキュリティ対策ソフト等、アプリケーションによっては特定のタイプとの組み合わせでのみ動作するものがあ りますのでご注意ください。なお、ディスクタイプを変更した場合はOSの再起動が必要となります。



VVAULT ()	k)
《 李 空き領域 1	開く(O) 新しいウィンドウで開く(E)
	共有(H) ▶
	フォーマット(A) 取り出し(J)
	切り取り(T) コピー(C)
	ショートカットの作成(S) 名前の変 <mark>見し</mark> れ)
使用領域:	プロパティ(R)

🚙 VVAULT (V:)のプロパティ 💦 🔁 🔀				
全般(ツール)ハードウェア 共有 セキュリティ カスタマイズ)				
「ネットワークのファイルとフォルダーの共有				
V:¥ 共有されていません				
ネットワーク パス(<u>N)</u> : 共有されていません				
共有(S)				
詳細な共有 カスタムのアクセス許可を設定したり、複数の共有を作成したり、その他の詳 細な共有のオプションを設定したりできます 3				
共有フォルダーにアクセスするには、ユーザー アカウントとパスワードが必要で す。				
この設定を変更するには <u>ネットワークと共有センター</u> を使用してください。				
OK キャンセル 適用(<u>A</u>)				

1

エクスプローラから仮想ドライブを選択した状態 で、右クリックメニューを表示し、プロパティを選択 します。



プロパティ画面より「共有」タブを選択します。



「詳細な共有」をクリックします。

※Windows Server 2003 R2 では「詳細な共有」ボタンがなく、 タブ内に詳細が表示されています。

詳細な共有 4	×
✓ このフォルダーを共有する(S)	
共有名(出):	
share2	
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721	
:(Q)+ געב	
5	
アクセス許可(P) キャッシュ(<u>C</u>)	
OK キャンセル 適用	

📕 share2 のアクセス許可		×
共有アクセス許可		•
グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):		
& Everyone		
	追加(D)	削除(<u>R</u>)
Everyone のアクセス許可(P)		
変更		
読み取り		
アクセス制御とアクセス許可の詳細を		
ОК	キャンセル	適用(<u>A</u>)

詳細な共有	×
✓ このフォルダーを共有する(S)	
- 設定]
share2	
追加(A) 削除(B)	
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721 :::	
:(<u>0</u>):	
<u>アクセス許可(P)</u> 8 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	
OK キャンセル 適用	



「このフォルダーを共有する」にチェックを入れ、共 有名に「share2」を入力します。

5 「アクセス許可」ボタンをクリックします。



- 共有アクセス許可するグループまたはユーザーを 追加し、アクセスの許可/拒否を設定します。ここ では [Everyone]に対して全てを許可しています。
- 7 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックして「ア クセス許可」の画面を閉じます。



「詳細な共有」の画面に戻り、「OK」をクリックしま す。さらに、開かれているドライブのプロパティ画面 も「OK」をクリックして閉じてください。

※詳細に設定したい場合は、「既存の共有フォルダーを移行する場合」の手順「対象のフォルダーを共有する(P.40)」を参照してください。

ⅈ⊒コンピューター			_ 🗆 🗡
בשעב א 🍋	·9- •	▼ 🔯 コンピューターの検索	<u> 1</u>
整理 マー システムのプロ/	ティ ブログラムのアンインストールと変更	ネットワーク ドライブの割り当て ᠉ 📑 👻	
 ★ お気に入り ダウンロード デスクトップ 第 長近表示した場所 ライブラリ ドキュメント ビクチャ ビデオ シュージック エンピューター ローカル ディスク (C) ボリューム (D) VVAULT (V) ネットワーク 	 ハード ディスク ドライブ (2) ローカル ディスク (2) ローカル ディスク (2) マンド ディスク (2) ジムーパブル記憶城があるデバイス (3) ジロッピー ディスク ドライブ マロッピー ディスク ドライブ VVAULT (V) ジェンジ 空き雑類 175 GB/398 (1) 	#) <u>1 ~ ム (D)</u> 58 39 (A) 9 (A) 9 58 9 57 57 57 57 57 57 57 57 57 57	
	- 38637L ワークグループ: WORKGROUP プロセッサ: Intel(R) Xeon(R)	メモリ: 2.00 GB CPU	

9 エクスプローラより「コンピューター」を開くと、仮 想ドライブに共有が設定されている状態のアイコ ンが表示されています。

> ※共有設定は仮想ドライブ全体ではなく、仮想ドライブ内の任意の フォルダに対しても設定することができます。フォルダに対して共 有設定する場合は「既存の共有ドライブを移行する場合」の「対象 のフォルダーを共有する (P.51)」を参照してください。

STEP 4 フォルダーのアクセス権を設定する

仮想ドライブ上のフォルダーにアクセス権限を設定します。

仮想ドライブ上に新規に作成されたフォルダーはドライブに設定されているデフォルトのセキュリティ情報を引き継ぎます。「部署C」の フォルダーに個別にセキュリティを設定する必要がある場合は、下記の手順で設定します。







2 エクスプローラから仮想ドライブを選択した状態 で、右クリックメニューを表示し、プロパティを選択 します。



部署C のt アクセス許可 アクセス許可 クリックしてく オブジェクト。 アクセス許可	2キュリティの詳細設定 監査 所有者 有効なアクセス許 TTン・りの詳細を表示するには、目的の ださい。 名: V¥部署C TTントリ(I):	可)エントリをダブルクリックしてく#	さい。アクセス許可に変	変更を加えるには、「アクセス許可の変更」を
種類	名前	アクセス許可	継承元	適用先
許可	Administrator (WIN-UAVSHB	特殊	V:¥	このフォルダーのみ
許可	CREATOR OWNER	特殊	V:¥	サブフォルダーとファイルのみ
許可	SYSTEM	フル コントロール	V:¥	このフォルダー、サブフォルダーお
許可	Administrators (WIN-UAVSH	フル コントロール	V:¥	このフォルダー、サブフォルダーお
許可	Users (WIN-UAVSHB8637L¥	特殊	V:¥	このフォルダーとサブフォルダー
許可	Users (WIN-UAVSHB8637L¥	読み取りと実行	V:¥	このフォルダー、サブフォルダーお
許可	5 (WIN-UAVSHB8687L¥	ファイルの作成/データの	親オブジェクト	このフォルダーのみ
- アクセス 〒 このオブ	許可の変更(C)	午可を含める(1)		

ブジェクトネ クセス許可	5: V:¥部署C 「エントリ(丁):			
種類	名前 ア	りセス許可	維承元	適用先 ▲
许可	Administrator (WIN-UAVSHB 特	·殊	V:¥	このフォルダーのみ
许可	CREATOR OWNER 特	殊	V¥	サブフォルダーとファイルのみ
許可	SYSTEM 7/	ゆ コントロール	V:¥	このフォルダー、サブフォルダーお
许可	Administrators (WIN-UAVSH 7)	ルコントロール	V¥	このフォルダー、サブフォルダーお.
许可	Users (WIN-UAVSHB8637L¥ 特	殊	V¥	このフォルダーとサブフォルダー
ध्यः ।	lleare (WIN-IIA\/SHR9697I¥ 结	は取れと事件	1/4	.7/m→+1./3′ー #+**→+1./3′ーキ ▶
追加(D 編集(E)	前形余(円)	6	
このオフラ	シェクトの親からの壯本可能なアクセス許可	を含める(1)		





「部署C」フォルダーのプロパティ画面にて、「セキュ リティ」タブを選択します。



「詳細設定」をクリックします。



「セキュリティの詳細設定」画面にて「アクセス許可 の変更」をクリックします。



「このオブジェクトの親からの継承可能なアクセス 許可を含める」のチェックを外します。



親から継承された権限を削除するため、「削除」をク リックします。
● 部署C のセキュリティの詳細設定 区 のセキュリティの詳細設定
アクセス許可
アクセス許可エントリの詳細を表示または編集するには、エントリを選択してから、「編集」をクリックしてください。
オブジェクト名: V4部署C
アクセス許可エントリ(工):
どのグループやユーザーもこのオブジェクトにアクセスするアクセス許可を持っていません。ただし、このオブジェクトの所有者はアクセス許可を割り
a Caccin Cearge
8
编辑(E)
□ このオブジェクトの現からの推承可能なアクセス詳可を含める(1)
□ 子オブジェクトのアクヤス詳可すべてを、このオブジェクトからの継承可能なアクヤス許可で書き換える(P)

ユーザー または グループ の選択	? ×
オブジェクトの種類の選択(<u>S</u>): ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル	オブジェクトの種業類(0)
場所の指定(<u>F</u>): WIN-UAVSHB8637L	9
選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E): 「部署C	名前の確認(2)
	OK ***`\t?\\

٦	-ザー または グループ の選択		? ×
7 - +	ブジェクトの種類の選択(S): ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル 副版のセビュア。		オブジェクトの種類(の)
7, 5 3	かかいするたくした。 MIN-UAVSHB8687L 群化するオブジョックトをなる、カト、アください、(例IVE)・		場所(<u>L</u>)
[]	MIN-UAVSHB8637L¥部署C		冬前の確認(<u>C</u>)
	詳細設定(<u>A</u>)	ОК	**>セル

<mark>∦ 部署C のアクセス許可エントリ</mark> オブジェクト │			×
名前(<u>N</u>): 「部署C (WIN-UAVSHB8637L 適用先(Q): このフォルダー、サブフォルダー	¥部署C) ・およびファイル		
アクセス許可(P):	許可	拒否	
フルコントロール フォルダーのスキャン/ファイルの実行 フォルダーの一覧/データの読み取り 属性の読み取り 拡張属性の読み取り ファイルの作成/データの書き込み フォルダーの作成/データの追加 属性の書き込み 拡張属性の書き込み サブフォルダーとファイルの削除 削除			<u> </u>
これらのアクセス許可を、このコンテナーの ブジェクトやコンテナーにのみ適用する(T) アクセス許可の管理	中にあるオ 11	ৰ্শটেয়াস	
	ОК		1211

8

新規のエントリを追加するため「追加」をクリック します。

- 9 ユーザーまたはグループ名を入力し、「名前の確認」 をクリックして、追加対象を選択します。 左図では「部署C」を入力して、グループを確認しま す。

10 検索された結果が表示されますので、追加する場 合は [OK]をクリックします。



11 選択したユーザーまたはグループのアクセス許可を 設定し、「OK」をクリックします。

📕 部署C のセ	キュリティの詳細設定					×
アクセス許可						
アクセス許可	エントリの詳細を表示または編集する	には、エントリを選択してから	、[編集] をクリッ	りしてください。		
オブジェクト名	S V¥部署C					
アクセス許可	IンHUD:					
種類	名前	アクセス許可	維承元		適用先	
許可	部署C (WIN-UAVSHB8637L¥_	. วม ฉวาค่า	〈維承なし〉		このフォルダー、サブ	プラォルダーお
1800	D/) 編集(E) (削爆余(<u>B</u>)				
ロレークオブミ						
このオフラゴライの形成のもの単単す。能はオフラビスますすぎぎきのふし デオブジェクトのアクセス許可すべてを、このオブジェクトからの継承可能なアクセス許可で置き換える(P)						
アクセス許可	エンドリの管理			12	_	
				OK	キャンセル	適用(<u>A</u>)

📙 部署Cのブロパティ 🛛 🛛 🗵
全般 共有 セキュリティ カスタマイズ
オブジェクト名: V¥部署C
グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):
&部署C(WIN-UAVSHB8637L¥部署C)
アクセス許可を変更するには [編集] をクリック: 編集(E)
部署Cのアクセス許可(P) 許可 拒否
② 更 ✓ ✓ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■
変更 ✓ 読み取りと実行 ✓ フォルダーの内容の一覧表示 ✓
変更
変更
変更
変更 ✓ 読み取りと実行 ✓ フォルダーの内容の一覧表示 ✓ 読み取り ✓ 書き込み ✓ 特殊なアクセス許可または詳細設定を表示するには、

192.168.7.152			
- 51 - 52	ク + 192.168.7.152 +		- K
ファイル(E) 編集(E) 表示(シ ツール(エ) ヘルプ(ト	Ð	
🕒 整理 ▼ 🔳 表示 ▼	💱 ネットワークと共有セ	ひター 14	
お気に入りリンク	名前 ← ▼ 種類		
100 F#1X2F			
📭 ピクチャ			
💽 ミュージック			5-6
🚱 最近の変更			
📗 検索	share	share2	プリンタ

12 続けて別のユーザーまたはグループを設定する場合は8~11の手順を繰り返してください。 完了する場合は、「OK」をクリックします。

13

「部署C」のフォルダプロパティ画面にて、グループ 「部署C」のみがアクセス可能に設定されたことが 確認できます。完了する場合は「OK」をクリックし てプロパティ画面を閉じます。

14 同一ネットワーク上にある他のPCから、VVAULT をインストールしたマシンにアクセスし、仮想ドラ イブ上に構築した共有フォルダー [share2]にアク セスできることを確認します。

構成ストレージのセキュリティ設定について

VVAULTの管理画面から「ストレージ追加」にて「管理対象パス」として指定したドライブまたはフォルダー直下には、 「VVV000」(番号部分は可変)というようなVVAULTの管理フォルダーが作成されます。通常このフォルダーは、一般 ユーザーからアクセスできる必要はなく、またセキュリティの観点からアクセス可能なユーザーを制限することをお勧 めします。ユーザーを制限する場合は、管理フォルダー(階層下コンテンツ含む)のセキュリティには必ずSYSTEMアカ ウントに対するフルコントロール権限を付与しておく必要があります。

想定する構成について

下図のように共有フォルダーとして公開しているデータをVVAULTの仮想ドライブへ移行する手順について説明します。この手順は、 既存の共有フォルダーとして設定されたフォルダーを仮想ドライブへ移行することを想定しています。仮想ドライブを新規の共有フォ ルダーとして設定する場合は「仮想ドライブを共有する (P.27)」を参照してください。



仮想ドライブへ移行



- ① 部署A、部署Bフォルダーの共有を解除する
- 各フォルダーを仮想ドライブの構成ストレージ「部署A」 「部署B」としてそれぞれ取り込む
- ③ 仮想ドライブをマウントする
- ④ 仮想ドライブ上の各フォルダーを、「部署A」「部署B」という 共有名で共有する
 - 「部署A」「部署B」のフォルダーは移行後も移行前と同様に、 パス:¥¥fileserver ¥部署A パス:¥¥fileserver ¥部署B としてアクセスできる

STEP 1 対象フォルダーの共有設定を解除する

対象となる「部署A」「部署B」両方のフォルダーに対し以下の手順を実施し共有設定を解除します。





設定	
部署A	▼
追加(A) 削除(R)	
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	1677721
)+ريد ا	

エクスプローラから共有設定されているフォルダ ーを選択した状態で、右クリックメニューを表示し、 プロパティを選択します。



フォルダプロパティ画面より「共有」タブを選択し ます。



「詳細な共有」をクリックします。

※Windows Server 2003 R2 では「詳細な共有」ボタンがなく、 タブ内に詳細が表示されています。



「アクセス許可」ボタンをクリックします。

🔋 部署A のアクセス許可		×
共有アクセス許可	5	
グループ名またはユーザー名(G):		
A WIN-UAVSHB8637L¥部	署A)	
 		
	<u>追加(D</u>)	
部署A のアクセス許可(P)	許可	拒否
ע-םאכב ער		
変更		
読み取り		
アクセス制御とアクセス許可の調査を表示	<u>ನರಿಕಿತ್ತ</u> ್ರ	
ОК	キャンセル	適用(<u>A</u>)

共有名(出):		 	_
追加(<u>A</u>)	削16余(<u>R</u>)		
同時に共有でき	るユーザー数(」):	,	
コメント(<u>0</u>):			





6 全て記録し終わったら、「OK」をクリックしてウィン ドウを閉じます。

- 7 「このフォルダーを共有する」のチェックを外します。
- 8 [OK]をクリックします。
 さらに、開かれているフォルダプロパティ画面も閉じます。

これで「部署A」フォルダーの共有が解除されました。「部署B」フォルダーについても、同様に1~8の 操作を実施し、共有を解除してください。



共有フォルダーに設定されているフォルダーを見つけるには

共有フォルダーが実際どのフォルダーに設定されているかを確認するには、「コントロールパネル」の「管理ツール」から「共有と記憶域の管理」をクリックします。表示された画面の「共有」のタブに、現在設定されている「共有名」およびその「ローカルのパス」情報が表示されます。

2011年1月1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1	
1/2 ファイルビア 操作(A) 表示(y) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)	<u></u> ×
🗢 🔿 📅 📓 🖬	
※ 共有と記憶域の管理(ローカル) 共有と記憶域の管理(ローカル)	操作
井御 約15-6	共有と記憶板の管理(ローカル)。
6 @012/H	別のコンピューターへ接続。
共存名 プロトコル ローカル パス ウォーク コッイル ペッド 空外領域	🍮 記憶城の準備。
E 70FUK SMB(6 747J)	(武) 共有の準備
Bit ADMINS SMB C-#Windows 499 GB	セッションの管理
ga C\$ SMB C.V 499 GB	聞いているファイルの管理。
🐲 D\$ SMB D# 165 GB	表示 🕨
R IPC\$ SMB -	ここから新しいウィンドウ
Share SMB v4Share 155 GB	合 最新の情報に更新
gg# V& 5MC V# 180.08	2 ∧#7
	Share 🔺
	🗙 共有解除。
	🗊 วือ/(ริง
	107



対象となる「部署A」「部署B」両方のフォルダーに対し以下の手順を実施し構成ストレージとして追加します。

VAULT [®] Administration		
	仮想ドライブ	ライブ
\$ +	9 -	

ストレージ追加 追加するストレージの情報を入力して決定ボタンをクリックしてください ※管理対象パスに仮想ドライブで公開している共有フォルダは指定しないでください			
種類* : 最速ストレージマ ストレージ名* : 部署A 管理対象パス*: C·+部署A コメント :			
ネットワークストレージへの接続			
□ ユーザ名とバスワードを使用する			
ユーザ名 : PC名(またはドメイン名)¥ユーザ名			
パスワード: 2 パスワードを表示			
決定 キャンセル			

VVAULTの管理ツールより、「仮想ドライブ」タブを 選択した状態で、「ストレージ追加」アイコンをクリ ックします。

2 「ストレージ追加」のサブウィンドウにて、「ストレージ名」に"部署A"を「管理対象パス」に"C: ¥部署 A"を入力して「決定」をクリックします。種類については適当なものを選択してください。不明な場合は 「最速ストレージ」で問題ありません。

既存のデータを取り込む場合、下記の手順に従い、データを取り込みます。

仮想ドライブにデータを取り込む前に

仮想ドライブにデータを取り込むには、取り込みデータにSYSTEM アカウントのフルコントロール権限を付与する必要があります。詳細については、「既存の共有ドライブを移行する場合」の移行手順「対象フォルダーのアクセス権を設定する (P.46)」を参照してください。

バックアップ対象について

VVAULTのバックアップ機能は、仮想ドライブにて管理されるすべてのデータをバックアップ対象とします。そのため、 バックアップが不要な共有フォルダーについては、仮想ドライブに取り込む必要はありません。







ストレージ追加 追加するストレージの情報を入力して決定ボタンをクリックしてください ※管理対象パスに仮想ドライブで公開している共有フォルダは指定してださい			
種類* : 最速ストレージ▼			
ストレージ名*:部署B			
管理対象バス*: D:¥部署B			
×			
ネットワークストレージへの接続			
□ ユーザ名とバスワードを使用する			
ユーザ名 : PC名(またはドメイン名)¥ユーザ名			
パスワード:	ードを表示		
決定	キャンセル		





管理対象パス下に取り込み対象のデータが存在す る場合は「取り込む」をクリックします。

※管理対象パスに除外したいデータが含まれる場合は「取り外す」 をクリックしてストレージを解除し、目的のデータのみ含まれるよ うに調整し、構成ストレージを追加してください。



5 部署Aを取り込んでもよろしいですか?」というメッ セージが表示されますので [OK] をクリックします。

6

既存データの取り込みが実施されます。



「部署B」のフォルダーも「部署A」と同様に、ストレ ージとして追加します。

VAULT [®] Administration			
仮想ドライブ	ライブバックアップ	障害 警告情報	
<u>𝔅+ 𝔅−</u> 8			
■ 100 WAULT (V:) ■ 100 最速ストレージ	最速ストレージ		
■ ¥ 部署A	■ 🕺 部署A …「VVAULT」と	データを同期中…	
■ 🕺 部署B	■ 🕺 部署B …「VVAULT」 と	データを同期中・・・	



2つ以上の共有フォルダーを取り込むには

VVAULT Basic で追加できる構成ストレージは2つまでです。2つ以上の共有フォルダーを同時に取り込む場合は、 有償ライセンスをお買い求めください。なお、十分容量の大きなストレージを構成ストレージとして追加した状態で、 共有フォルダーに対してストレージの追加(取り込み)、取り外しの手順を繰り返すことで、複数の共有フォルダーを仮 想ドライブに取り込むことができます。なお、複数の共有フォルダーが含まれる上位のフォルダーが存在する場合は、 そのフォルダーを管理対象パスとして指定することによって複数の共有フォルダーを同時に取り込むことが可能で す。ただし、管理対象パス以下にアプリケーションやシステムで利用するフォルダーが含まれないようにする必要があ ります。













「仮想ドライブ」タブメニューの仮想ドライブ: 「Unmount」をクリックし仮想ドライブをマウント します。

※仮想ドライブのマウントは、構成ストレージが同期中でも操作可 能です。



確認のメッセージが表示されますので、[OK]をク リックします。



依存関係のあるサービスを再起動する旨のメッセ ージが表示されますので、「OK」をクリックします。



仮想ドライブが起動すると「Mount」の状態となります。



エクスプローラより、「コンピューター」を開いて、仮 想ドライブがマウントされていることを確認します。



👝 VVAULT (V:)	
整理 ▼ ライブラリに追加 ▼ 共有 ▼ 新し	いフォルダー
名前 🔺	更新日時
● 部署A ● 部署B	2012/03/21 0:5 2012/03/21 0:5



🚺 部署Aのナロバ <mark>: 3</mark>		
全般 共有 セキュリティ 以前のバージョン カスタマイズ		
部署A 共有されていません		
ネットワーク パス(<u>N)</u> : 共有されていません		
<u> </u>		
詳細な共有 カスタムのアクセス許可を設定したり、雑数の共有を作成したり、その他の詳 細な共有のオブションを設定したりです		
● 詳細な共有(D)		
┌パスワード保護		
共有フォルダー(こアクセスするには、ユーザー アカウントとパスワードが必要で す。		
この設定を変更するには <u>ネットワークと共有センター</u> を使用してください。		
OK キャンセル 道用(台)		





2 仮想ドライブ上の「部署A」フォルダーの右クリック メニューより 「プロパティ」を選択します。



フォルダプロパティのサブウィンドウより 「共有」タ ブを選択します。



「詳細な共有」をクリックします。

※Windows Server 2003 R2 では「詳細な共有」ボタンがなく、 タブ内に詳細が表示されています。

編な共有	
▼ このフォルターを共有する(S)	
共有名(日):	
部署A	
追加(A) 削除(B)	
同時に共有できるユーザー数(L):	1677721 🔆
אַראָב(0):	
6	
アクセス許可(P) キャッシュ(C)	

📕 部署A ወアクセス許可	X
共有アクセス許可	
グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):	
& Everyone	
	7
	追加(<u>D</u>) 削除(<u>R</u>)

ユーザー または グループ の選択	? ×
オブジェクトの種類の選択(S): ユーザー、グルーフ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル	オブジェクトの種類(の)
場所の指定(<u>F</u>): WIN-UAVSHB8687L	
- 選択するオブジェクト名を入力してください (<u>卿)(E)</u> 部署A	名前の確認(C)
	ОК <i>キャンセル</i>

ユーザー または グループ の選択	? ×
オブジェクトの種類の選択(S): ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル	オブジェクトの種類(の)
場所の指定(<u>F</u>): WIN-UAVSHB8637L	場所(_)
選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E) MIN-UAVSHB8637L¥部署A	
	9
詳細設定(A)	OK キャンセル

		10000	0
部署A のアクセス許可(P)	許可	拒否	
フル コントロール 変更 読み取り			
レービー アクセス制御とアクセス許可の詳細を表示します。			

- 5 「このフォルダーを共有する」にチェックを入れます。
- 6 「アクセス許可」ボタンをクリックします。



「部署A のアクセス許可」ウィンドウより 「追加」 ボ タンをクリックします。

 オブジェクト名の入力欄に、STEP1 にて記録したグ ループまたはユーザー名を入力し、「名前の確認」ボ タンをクリックします。



10 オブジェクトが追加されますので、手順1にて記録しているアクセス許可の状態を設定します。

追加する必要のあるグループまたはユーザーの数 だけ、7~10の手順をくりかえしてください。

📜 部署A のアクセス許可		×
共有アクセス許可		
& Everyone		
₩ 部署A (WIN-UAVSHB8637L¥部	署A)	
	追加(<u>D</u>)	肖·耶余(<u>R</u>)

📙 部署A のアクセス許る	T			×
共有アクセス許可				
グループ名またはユーサ	-名(<u>G</u>):			
& 部署A (WIN-UA	VSHB8637L¥部	署A)		
		追加(D)	削除(B)	
			·	
	(6)	-1	1	
部署A のアクセス許可	(<u>P</u>)	許可	拒否	
部署A のアクセス許可	(P)	許可 [2]	拒否	
部署A のアクセス許可 フル コントロール 変更	(P)	許可 「 「 」	語 日 日	
部署A のアクセス許可 フルコントロール 変更 読み取り	(P)	許可 又 又 又	語 □ □	
部署Aのアクセス許可 フルコントロール 変更 読み取り	(<u>P</u>)	許可 又 又 又		
部署A のアクセス許可 フルコントロール 変更 読み取り	(<u>P</u>)	許可 マ マ マ		
部署A のアクセス許可 フルコントロール 変更 読み取り	(<u>P</u>)	許可 又 又 又		
部署A のアクセス許可 フルコントロール 変更 読み取り	(<u>p)</u>	許可 又 又		
部署A のアクセス許可 フルコントロール 変更 読み取り	(<u>p</u>)	許可 ダ ダ		
部署Aのアクセス許可 フルコントロール 変更 読み取り アクセス制御とアクセス	(<u>P)</u> 注可00 <mark>計2 </mark> 表	許可 ダ ダ		



11	不要なグループまたはユーザーが存在している場
	合は、選択して「削除」ボタンをクリックします。

12 「部署Aのアクセス許可」が、1の「部署Aのアクセ ス許可」と完全に同じ状態になったら、「OK」ボタン をクリックしてこのウィンドウを閉じます。

13 最後に、クライアントPC のエクスプローラから、フ ァイルサーバに移行前と同様にアクセスできること を確認します。

以上で移行は完了です。

フォルダー共有時のご注意

共有するフォルダーのセキュリティにSYSTEM 権限が無い場合に、共有経由のアクセスでエラーが発生します。 共有フォルダーのセキュリティにSYSTEM 権限が含まれていない場合は「共有フォルダーにSYSTEM 権限を追加す る (P.102) 」の手順に従って、追加してください。

想定する構成について

下図のように共有フォルダーとして公開しているデータをVVAULTの仮想ドライブへ移行する手順について説明します。この手順は、 ドライブに対して共有設定されている共有フォルダーを仮想ドライブへ移行することを想定しています。仮想ドライブを新規の共有フ ォルダーとして設定する場合は「仮想ドライブを共有する(P.27)」を参照してください。また、フォルダーに対して共有設定されて いる場合は「▼既存の共有ドライブを移行する場合(P.43)」を参照してください。





STEP 1 対象フォルダーの共有設定の解除する

ポリューム (D:)	
28領域 9.9	開く(O) 新しいウィンドウで開く(E) 自動再生を開く(Y)
DVD איז דא 🔜	共有(H) ▶
	シャドウ コピーの構成(W)… 以前のバージョンの復元(V) ライブラリに追加(I)
	フォーマット(A)
	⊐ピ–(C)
	ショートカットの作成(S) 名前の変更(M)
	プロパティ(R)



 エクスプローラから共有設定されているドライブ を選択した状態で、右クリックメニューを表示し、プロパティを選択します。



プロパティ画面より「共有」タブを選択します。



「詳細な共有」をクリックします。

※Windows Server 2003 R2では「詳細な共有」ボタンはありま せんが、「共有」タブの選択によって詳細が表示されますので問題あ りません。

詳細な共有
マ このフォルターを共有する(S)
□ 設定
share
追力四(A) 削除(E)
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721
אַלאָב (<u>0</u>):
4
アクセス許可(P) キャッシュ(C)
OK きゃンセル 適用 適用

share のアクセス許可		×
共有アクセス許可	5	
グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):		
& Everyone		
	追加(<u>D</u>)	削除(<u>R</u>)
Everyone のアクセス許可(P)		 拒否
フル コントロール		
変更		
記の規则	M	
<u>アクセス制御とアクセス許可の</u>	ಕಿಗ್ರಾಕ್ಕೆ	
OK	キャンセル	適用(<u>A</u>)

このフォルターを共有する(S)	
六有治(山)	_
·信加(A) 貨(協会(P)	
同時に共有できるユーザー数(U):	
:(Q)+לאב	
79CX#**ICD 8791(9	
	1 `*•
OKキャンセル	





5 共有の再設定に備えて、共有アクセス許可されて いる全てのグループおよびユーザーを記録し、また、 グループおよびユーザー毎のアクセス許可情報を 記録します。



全て記録し終わったら、「OK」をクリックしてウィン ドウを閉じます。



7 「このフォルダーを共有する」のチェックを外します。

[OK]をクリックします。 8 さらに、開かれているフォルダプロパティ画面も閉 じます。

これで 「ドライブD」の共有が解除されました。



仮想ドライブにデータを取り込むには、対象のフォルダーにSYSTEM アカウントのフルコントロール権限を与える必要があります。フ ォルダー等のセキュリティをカスタマイズしている場合は、以下の手順で権限を追加してください。



エクスプローラからフォルダーを選択した状態で、 右クリックメニューを表示し、「プロパティ」を選択 します。



 フォルダーのプロパティ画面にて「セキュリティ」タ ブを選択します。

3 設定されているグループまたはユーザーを確認します。

左画像の場合、アクセス許可されているグルー プまたはユーザーは「部署A」のグループのみで、 SYSTEM アカウントへのアクセス許可がないため、 取り込み処理でエラーとなります。

卸者Aのノロバティ 2			_
全般 共有 セキュリティ 以前のバージョン	カスタマイ	[ズ]	
オブジェクト名: D.¥部署A		3	
グループ名またはユーザー名(G):			
總部署A (WIN-UAVSHB8637L¥部署A)			
アクセス許可を変更する(こは「編集」をかいか		編集(F)	71
A D C VIII - I G SC XC A G/C/OK DIMPSKI G D D D D		dimension (<u>F</u>)	
部署Aのアクセス許可(P)	許可		-
部署Aのアクセス許可(P) フルコントロール			
部署Aのアクセス許可(P) フルコントロール 変更	許可 ✓ ✓		
部署Aのアクセス許可(P) フルコントロール 変更 読み取りと実行 フォルダーの内容の一覧表示	許可 ✓ ✓ ✓	拒否	
 部署Aのアクセス許可(P) フルコントロール 変更 読み取りと実行 フォルダーの内容の一覧表示 読み取り 	<u>許可</u> ✓ ✓ ✓ ✓ ✓	拒否	
部署Aのアクセス許可(P) フルコントロール 変更 読み取りと実行 フォルダーの内容の一覧表示 読み取り 書き込み	<u>許可</u> ✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓	推否 重否	
部署Aのアクセス許可(P) フルコントロール 変更 読み取りと実行 フォルダーの内容の一覧表示 読み取り 書き込み 特殊なアクセス許可また(は詳細設定を表示する(2) [詳細設定]をクリックします。	許可 	····································	

🏧 管理者: コマンド ブロンブ	<u>/</u> ト	
C:¥>		
C:¥>		
C:¥>		4
C:¥>		
C:¥≻icacls D: /gra	nt SYSTEM:(OI)(CI)(F)	/⊺_

🣕 部署Aのプロパティ 🛛 🛛 🔀
全般 共有 セキュリティ 以前のバージョン カスタマイズ
オブジェクト名: D¥部署A 5
グループ名またはユーザー名(G):
AL SYSTEM
総部署A(WIN-UAVSHB8637L¥部署A)
<u> アクセス許可を変更する(には 1編集)をクリック・</u> <u> 編集(E)</u>
SYSTEM のアクセス許可(P) 許可 拒否
עב ארם ארב ארם
· 変更 · ✓ · · · · · · · · · · · · · · · · ·
書き込み 🖌 🔽
特殊なアクセス許可または詳細設定を表示するには、 [詳細設定]をクリックします。
アクセス制御とアクセス許可の詳細を表示します。
OK キャンセル 適用(A)

4 取り込み対象全体に対してSYSTEM アカウント権限(フルコントロール権限)を与えるには、対象配下全てにフルコントロール権限を持つユーザーにてコマンドプロンプトを開き、下記のコマンドを実行します。

icacls D: /grant SYSTEM:(OI)(CI)(F) /T

このコマンドを実行することによって、Dドライブ 配下のフォルダーおよびファイルにSYSTEM アカ ウント権限が付与されます。

※Windows XP にはicacls.exe コマンドがありません。XP にて 権限を追加する場合は下記コマンドを実行してください。

cacls D: /G SYSTEM:F /C /E /T

5 コマンド実行後にフォルダプロパティの「セキュリ ティ」の情報を表示すると、SYSTEM アカウントが 追加され、また、フルコントロール権限が割り当て られていることが確認できます。

これで取り込みの準備ができました。

取り込み時のエラーについて

SYSTEM アカウントの権限がないまま取り込むと、この画像のようにエラーが発生し、詳細に各フォルダーへの「アク

マス権がありません」というエラーが記録されます。SYSTEM アカウントのフルコントロール権限を付与してから再度取り込みを行ってください。

また、取り込み元のセキュリティ権限以外に、属性が「読み取り専用」となっている場合にも同様のエラーが記録されます。この場合は、取り込めなかったファイルをエクスプローラから、直接、仮想ドライブに移動することで対応してください。

i	I 😋 VVAULT (V:) ■ 🛷 最速ストレージ	share	取り込む	取り外す	強制取り外し	接続
	🗆 <table-cell-columns> share</table-cell-columns>	🛕 「VVAULT」とデータをF	司期中にエラーが発生	主しました。 « エラ・	ー詳細ダウンロード	* »
	■ �� 高速ストレージ ■ �� 中速ストレージ	Share_同期 - メモ帳 ファイル(E) 編集(E) 書式((0) 表示(V) ヘルブ	(H)		_ 🗆 X
	■ 🍄 低速ストレージ	2012年3月27日 13:5 2012年3月27日 13:5	7:36 D:¥部署A(7:37 D:¥部署B(こアクセス権が こアクセス権が	ありません。 ありません。	4
		_				





VVAULTの管理画面より、「仮想ドライブ」タブを 選択した状態で、「ストレージ追加」アイコンをクリ ックします。

ストレージ追加 追加するストレージの情報を入力して決定ボタンをクリックしてください ※管理対象バスに仮想ドライブで公開している共有フォルダは指定しないでく	
種類* : 最速ストレージ▼ ストレージ名* : share 管理対象バス*: D: コメント :	
ネットワークストレージへの接続 □ ユーザ名とバスワードを使用する ユーザ名 : PC名(またはドメイン名)¥ユーザ名 バスワード : □ バスワ	ードを表示
決定	キャンセル

2 「ストレージ追加」の画面にて、「ストレージ名」に "share"を「管理対象パス」に"D:"を入力して「決 定」をクリックします。種類については適当なもの を選択してください。不明な場合は「最速ストレー ジ」で問題ありません。

> ※管理対象パス階層下にアプリケーションやシステムのフォルダー が存在しないことを確認ください。含まれている場合、アプリケー ションやシステムが動作しなくなる場合がありますのでご注意くだ さい。

既存のデータを取り込む場合、下記の手順に従い、データを取り込みます。

仮想ドライブにデータを取り込む前に

仮想ドライブにデータを取り込むには、取り込みデータにSYSTEM アカウントのフルコントロール権限を付与する必要があります。詳細については、「既存の共有ドライブを移行する場合」の移行手順「対象フォルダーのアクセス権を設定する (P.46)」を参照してください。

バックアップ対象について

VVAULTのバックアップ機能は、仮想ドライブにて管理されるすべてのデータをバックアップ対象とします。そのため、 バックアップが不要な共有フォルダーについては、仮想ドライブに取り込む必要はありません。



2つ以上の共有フォルダーを取り込むには

VVAULT Basic で追加できる構成ストレージは2つまでです。2つ以上の共有フォルダーを同時に取り込む場合は、 有償ライセンスをお買い求めください。なお、十分容量の大きなストレージを構成ストレージとして追加した状態で、 共有フォルダーに対してストレージの追加(取り込み)、取り外しの手順を繰り返すことで、複数の共有フォルダーを仮 想ドライブに取り込むことができます。なお、複数の共有フォルダーが含まれる上位のフォルダーが存在する場合は、 そのフォルダーを管理対象パスとして指定することによって複数の共有フォルダーを同時に取り込むことが可能で す。ただし、管理対象パス以下にアプリケーションやシステムで利用するフォルダーが含まれないようにする必要があ ります。















「仮想ドライブ」タブメニューの仮想ドライブ: 「Unmount」をクリックし、仮想ドライブをマウン トします。

※仮想ドライブのマウントは、構成ストレージが同期中でも操作可 能です。

2 確認のメッセージが表示されますので、「OK」をク リックします。

3 依存関係のあるサービスを再起動する旨のメッセ ージが表示されますので、「OK」をクリックします。



仮想ドライブが起動すると「Mount」の状態となります。

5 エクスプローラより、仮想ドライブを開きます。仮想 ドライブ直下に「部署A」「部署B」フォルダーが存在 していることが確認できます。





📙 shareのプロパテ・2	×
全般 共有 セキュリティ カスタマイズ	
「ネットワークのファイルとフォルダーの共有	
share 共有されていません	
ネットワーク パス(<u>N)</u> : 共有されていません	
共有(<u>S</u>)	
「詳細な共有	
カスタムのアクセス許可を設定したり、計3日に有を作成したり、その他の詳細な共有のオブションを設定したりできます。	
登 詳細な共有(D)	
┌ パスワード保護	
共有フォルダーにアクセスするには、ユーザー アカウントとパスワードが必要で す。	
この設定を変更するには ネットワークと共有センター を使用してください。	

詳細な共有	×
▼ 10777112-を共有する(S)	
共有名(日):	
share	
追加(<u>A</u>) 肖耶余(<u>B</u>)	
同時に共有できるユーザー数(し): 1677721 …	
5	
アクセス許可(P) キャッシュ(C)	

 エクスプローラから仮想ドライブ上の [share] フォ ルダーを選択した状態で、右クリックメニューを表 示し、「プロパティ」を選択します。



フォルダプロパティ画面より「共有」タブを選択し ます。



「詳細な共有」をクリックします。

※Windows Server 2003 R2 では「詳細な共有」ボタンがなく、 タブ内に詳細が表示されています。



「このフォルダーを共有する」にチェックを入れます。



📜 share のアクセス許可		×
共有アクセス許可		6
グループ名またはユーザー名(G):		
& Everyone		
	追加(D)	削除(<u>R</u>)
Evervone のアクヤス許可(P)		
ערב אר		
変更		
読み取り		
		P
アクセス制御とアクセス許可の記載	示します。	
ОК	キャンクル	(適用(A) (
ОК	***/7/1	

共有名(<u>H</u>):		
isnare 追加(<u>A</u>)	前IF余(<u>E</u>)	
同時に共有で	きるユーザー数(<u>L</u>):	1677721
コメント(の):		

🕌 share		
	?— ▼ VVAULT (V:) ▼	• share • •
整理 🔻 🍃 開く 共有	▼ 新しいフォルダー	-
🚖 お気に入り	名前 ▲	
📔 ダウンロード	● 部署A	
■ デスクトップ ■ 最近表示した場所	↓ ● 部署B	闌く(O) 新しいウィンドウで開く(E)
and solver of the second		共有(H) →
⇒イブラリ		送る(N) 🕨
 ■ ドギュメノド ■ ピクチャ ■ ドクチャ 		切り取り(T) コピー(C)
📑 こうろ 🎝 ミュージック		ショートカットの作成(S)
🜉 בטציב-א-		名前の変更(M)
🏭 ローカル ディスク (C:)		プロパティ(R)
一 ボリューム(U) 、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、		



6 記録していた情報から、「ドライブD」の共有と同様 の設定を「share」フォルダーに復元します。

※共有設定の詳細については「既存の共有フォルダを移行する場 合」の手順「対象のフォルダーを共有する(P.40)」を参照してく ださい。





「詳細な共有」画面に戻ったら「OK」をクリックしま す。



📒 部署Aのプロパティ 🛛 10	×
全般 共有 セキュリティ カスタマイズ	
オブジェクト名: V:¥share¥部署A	1,
グループ名またはユーザー名(G):	
¥SYSTEM 終部署A (WIN-UAVSHB8637L¥部署A)	
アクセス許可を変更するには「編集」をクリック	編集(<u>E</u>)
SYSTEM のアクセス許可(P) 許可	拒否
	-
フォルダーの内容の一覧表示 🗸	
読み取り 🗸	
▲書き込み ✓ 特殊なアクセス許可または詳細設定を表示するには、 [詳細設定]をクリックします。	
アクセス制御とアクセス許可の詳細を表示します。	
 	· 道用(<u>A</u>)



フォルダプロパティ画面より「セキュリティ」タブを 選択します。

11 仮想ドライブに取り込まれたデータが元のセキュリ ティ情報を引き継いでいることを確認します。 ただし、仮想ドライブへの取り込みのために追加し たSYSTEM アカウントのセキュリティ情報も追加 されています。

仮想ドライブ上の共有設定されたフォルダー以外 のデータからはSYSTEM アカウント権限を削除し ても構いませんので、必要に応じて続きの手順にて 削除します。

※仮想ドライブの共有に設定したフォルダーにSYSTEMのフルコ ントロール権限が設定されていない場合、共有経由のアクセスで 接続エラーとなります。

12

仮想ドライブ上の「share」フォルダー配下から SYSTEM アカウント権限を削除するには、コマン ドプロンプトにて下記コマンドを実行します。

icacls V:¥share /remove SYSTEM /T

※Windows XP にはicacls.exe コマンドがありません。XP にて 権限を削除する場合は下記コマンドを実行してください。

cacls V:¥share /R SYSTEM /E /T

- 13 仮想ドライブ上の「部署A」フォルダーのプロパティ 画面より 「セキュリティ」タブを選択します。
- SYSTEM アカウントの権限が削除されたことを確 14 認します。

ogi管理者: コマンド プロンプト	
C:¥>	12
C:¥> C:¥>icacls V:¥share /remove SY	STEM /T_

	×
オブジェクト名: V:¥share¥部署A	14
グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):	
総部署A (WIN-UAVSHB8637L¥部署A)	
고 년년 고양 국가 本市 귀가 (기)에 양금供 1 가 년다. 년	
アクセス計可を変更するには「編集」をクリック	
アクセス許可を変更するには「編集」をクリック 部署Aのアクセス許可(P) 許可	
アッセス計画を変更するには「編集」をグリック: 部署Aのアクセス許可(P) 許可 フルコントロール イ	
POセス許可を変更するには「編集」をクリック: 部署Aのアクセス許可(P) 許可 フルコントロール 文更 すれ、 取りにまた ・	
<i>P</i> -9℃ス計可を変更するには「編集」をクリック: 部署Aのアクセス許可(P) 許可 フルコントロール 変更 読み取りと実行 コールは、の中ののの一覧ま示	
POTEX計画を変更するには「編集」をクリック: 部署Aのアクセス許可(P) 許可 フルコントロール ダ更 ✓ 読み取りと実行 フォルダーの内容の一覧表示 ✓ 読み取り	
P 少セス許可を変更するには「編集」をクリック: 部署Aのアクセス許可(P) 許可 フルコントロール 文更 、 読み取りと実行 フォルダーの内容の一覧表示 読み取り まざ込み よ	
Pクセス許可を変更するには「編集」をクリック: 部署Aのアクセス許可(P) 許可 フルコントロール 変更 ✓ 読み取りと実行 フォルダーの内容の一覧表示 読み取り 書き込み 子 特殊なアクセス許可または詳細設定を表示するには、 詳細設定」をクリックします。	·編果(U) 拒否 ▲ ■ ■ ■

📙 shareのプロパティ	×
全般 共有 セキュリティ 以前のバージョン カスタマイ	(X) .
オブジェクト名: V:¥share	15
_グループ名またはユーザー名(G):	
& CREATOR OWNER	
SYSTEM	
Administrator (VVAULT-NAS¥Administrator)	
アクセス許可を変更するには [編集] をクリック:	編集(<u>E</u>)
SYSTEM のアクセス許可(P) 許可	拒否
フルコントロール 🗸	
変更 ✓	
読み取りと実行	
フォルターの内谷の一覧表示 🧹	
またの4X5	-
特殊なアクセス許可または詳細設定を表示するには、 [詳細設定]をクリックします。	詳細設定(⊻)
<u>アクセス制御とアクセス許可の詳細を表示します。</u>	
OK キャンセル	レ 道用(<u>A</u>)

<u>蔵</u> 管理者: コマンド ブロンブト	
C:¥>	16
C:¥>	
C:¥≻icacls V:¥share ∕grant	SYSTEM: (F)

192.168.7.152	
GO- 🖪 • ネットワーク	7 + 192.168.7.152 +
ファイル(E) 編集(E) 表示()	⊻ ツール(T) ヘルプ(H)
🤄 整理 ▼ 📰 表示 ▼	ネットワークと共有センター 17
フォルダ 🗸	名前 🔺 🖣 種類 🛛 🚽 コメ
🗾 デスクトップ	ahava
Administrator	
퉬 パブリック	
🌉 ವンピュータ	
🔮 ネットワーク	
192.168.7.152	
膧 share	
📔 部署A	
📔 部署B	
🎭 プリンタ	

15 仮想ドライブ上で共有フォルダーとして設定した [share]フォルダーのプロパティ画面より「セキュ リティ]タブを選択します。

> SYSTEM のフルコントロール権限が存在している ことを確認します。

16 SYSTEM のフルコントロール権限がない場合は 下記コマンドによって、「share」 フォルダーにのみ SYSTEM のフルコントロール権限を設定します。

icacls V:¥share /grant SYSTEM:(F)

※Windows XP にはicacls.exe コマンドがありません。XP にて 権限を追加する場合は下記コマンドを実行してください。

cacls V:¥share /G SYSTEM:F /E

17 クライアントPC から、仮想ドライブを設定したサ ーバにアクセスし、これまでの同様に利用可能なこ とを確認します。



VVAULT 導入ステップガイド [クラウドバックアップ・クライアント編]

ローカルバックアップは、仮想ドライブと同様にローカルマシンから参照可能なストレージを構成してバックアップ先を作成し、仮想ド ライブのデータをバックアップする機能です。ローカルにデータをバックアップする場合に設定ください。

STEP 1 バックアップストレージを追加する

VAULT [®] Administratio	n
仮想ドライブ	ライブバックアップ
S+ S-	
🗉 🧼 ローカルバックアップ	ローカルバックアップ

バックアップストレージ追加 追加するストレージの情報を入力して決定ボタンをクリックしてください ※管理対象バスに仮想ドライブで公開している共有フォルダは指定しないでください 2
種類 : 最速ストレージ ストレージ名*: BackupStoraee 管理対象パス*: E: コメント : メ
容量制限 : C 無効 C 有効 GB M
ネットワークストレージへの接続
□ ユーザ名とパスワードを使用する
ユーザ名 : PC名(また)はドメイン名)半ユーザ名
パスワード: 3 パスワードを表示
決定 キャンセル

 VVAULTの管理ツールより、「ライブバックアップ」 タブを選択した状態で、「ストレージ追加」アイコン をクリックします。

2 「ストレージ追加」のサブウィンドウにて、「ストレージ名」に任意の名前を、「管理対象パス」にバックアップ用のストレージのパスを入力します。種類については適当なものを選択してください。不明な場合は「最速ストレージ」で問題ありません。

※バックアップ用のストレージは、仮想ドライブの構成ストレージ とは物理的に別のストレージをご用意ください。





VAULT [®] Administratio	n		
仮想ドライブ	ライブバックアップ	障害·警告情報	ノステム設定
S4 S=		ローカル <i>バッ</i> クアッフ	クロFF クラウド パックアッ
🗉 🥧 ローカルバックアップ	ローカルバックアップ		バックアップデータ
■ 🎲 最速ストレージ			
🔳 🌮 BackupStorage	バックアップ設定		
■ 🏫 高速ストレージ	ⓒ 常時実行 ○ 時間帯指定	E 00 I 時 00 I 分~ 00 I	時 00 💌 分



LT [®] Administratio	n		
反想ドライブ	ライブバックアップ	障害•警告情報 0	3 元于人設定
<i>S</i> -		ローカル バックアッ	フラウド バックアッ:
ーカルバックアップ	ローカルバックアップ		バックアップデータ
最速ストレージ の BackunStorage	パックアップ実行中		
高速ストレージ			
中速ストレージ	ハックアッフ設定		

1 ローカルバックアップの [ON/OFF] ボタンをクリ ックし、バックアップを開始します。

2 [OK]をクリックします。



ローカルバックアップが開始されると[ON]の状態になります。

クラウドバックアップは、バックアップサーバ機能が稼動している別のVVAULT ヘデータをバックアップする機能です。 予め、バックアップサーバとして稼動しているVVAULT が別途必要となりますのでご注意ください。











※次に「接続テスト」ボタンをクリックし、接続を確認します。



inistration					B2.	品マニュアル
	ライブバックアップ	障害·警告情報 0	システム設定		Λ	
		ローカル バックアッ	クラウト クラウト	パックアップ OFI	F 17-000XU	OFF
アップ ージ	クラウドバックアップ	JSy	クアップデータ初期化	接続テスト	通用	元ほ
-9 	バックアップサーバURL*:http	s:// hdl-zwh			サービ	スポリシーキ
-ッ -ジ	バスワード* : ●・ ボート番号* :	443				スワードを表
アップ	 常時実行 C時間帯指定 	00 〒時 00 〒 分~ 00	▼時 00 ▼ 分			
	ディスク使用量					





4



「適用」ボタンをクリックし、設定を保存します。



				製品マニュフ	
バックアップ	障害・警告情報 🛛	システム設定	1		
	ローカルバックア・	ップ OFF クラウ	ドバックアップ OF I	F ライブリカバリ OF	
「バックアップ	159	クアップデータ初期化	接続テスト	道用 元	
プサーパURL*: https:// hdl-zwh サービスポリ					
* : 💽				□ パスワード×	



				刻品	₽₹⊒₽
ドックアップ	障害·警告情報 0	システム設定			
	ローカルバックア	ップ OFF クラウト	ドバックアップ 🔼 📭	ライブリカバリ	OF
バックアップ	15	ックアップデータ初期化	接続テスト	適用	元
'アップ実行中					
プサーバURL*:http	os:// hdl-zwh			サービ	スポリシ、
* :	••••			□ <i>N</i> 2	スワードを



クラウドバックアップの [ON/OFF] ボタンをクリ ックし、バックアップを開始します。



「OK」をクリックします。



59

Biz シンプルディスク バックアップタイプをご契約のお客様

NTT コミュニケーションズが提供する [Biz シンプルディスクバックアップタイプ]をご契約のお客様は、ご契約時に NTT コミュニケーションズから送付されるメールに記載されている IP アドレス、パスワードを入力して下さい。

バックアップサーバへの接続について

コンピューターのシステム時刻とバックアップサーバの時刻で1時間以上の誤差があると接続に失敗する場合があります。この場合はシステム時刻をサーバの時刻に合わせてご対応ください。



Windows XP でクラウドバックアップをご利用のお客様

Windows XP にてクラウドバックアップの設定をして、接続を行うと、下の画像のようにエラーとなります。 このエラーを解消するには、手動でルート証明書を登録する必要があります。詳細は「Windows XP でのVVAULT ルート証明書の登録手順(P.104)」を参照して下さい。

127.0.0.1:10001 says: のページ	X
接続に失敗しました。 The underlying connection was c Could not establish trust relationship for the SSL/TI channel.[DS0201]	losed: .S secure
	OK

STEP 1 タイムマシーン機能を有効にする

バックアップの設定にて、「タイムマシーン」機能を有効にすることにより、過去のバックアップの状態を保存することができます。この機能を有効にすることで、仮想ドライブからフォルダーやファイルを誤って削除してしまった場合や過去のバージョンのファイルを、バックアップから復元することができるようになります。

※バックアップされる前に更新されたファイルや削除されたファイルは復元できません。

下記の手順に従い、過去のバックアップの状態を保存します。なお、下記手順は既にバックアップが設定されていることが前提です。



バックアップ設定	
バックアップサーバURL	≰; https:// 180.37.134.155
パスワード*	:
ポート番号*	: 443
スケジュール	: ◎ 常時実行 ○ 時間帯指定 00 -
タイムマシーン機能	: ◎ 無効 ⑧ 有効 8 日
☑作成日時の更新でバ	ックアップしない 3
☑更新日時の更新でパ	ックアップしない
▼アクセス日時の更新	でバックアップしない

ライブバックアップ	タイムマシー	->	開告 ^響 -害朝	報 1	システ	ム設定	
	п <i>~</i>	カル バックアップ	ON	クラウド バック	アップ ON	4	лIJ
クラウドバックア	ップ	バック	アップデータ初	期化	統テスト	適用	
バックアップ設定							
バックアップサーバUR	L*: https:// 180.3	87.184.155					
バスワード*	:	••					



VVAULTの管理画面より、「ライブバックアップ」タ ブより 「クラウドバックアップ」を選択します。



※保存期間を長く設定するほど、ディスクの使用容量も増加しま す。ディスク容量が不十分の場合は、保存期間を短く設定してくだ さい。

3 必用に応じて日付属性更新に伴うバックアップオプ ションを選択します。

> ※タイムマシーン機能を有効に設定し、日付属性の更新に伴うバッ クアップを有効にした場合、その更新情報も過去バージョンとして 保存されます。ただしファイルデータについてはその都度バックア ップされることはありません。また日付情報のみの更新でディスク 使用量が増加することはありません。

4 「適用」をクリックし、設定情報を保存します。

STEP 2 バックアップの状況を確認する

バックアップが構成されている場合、管理画面の 「タイムマシーン」タブより、現在のバックアップの状況をフォルダー単位で確認することができます。

※バックアップの状況は、「ライブバックアップ」>「クラウドバックアップ」の設定で、タイムマシーン機能が有効でない場合でも確認することができます。

下記の手順に従い、現在のバックアップ状況を確認します。

VAULT [®] Administrati	on	1
仮想ドライブ 2	ライブバックアップ	タイムマシーン
🏈 ローカルバックアップ 🔻	⊘ 2013/01/09 13:20	
🌒 🥩 ローカルバックアップ		
🛆 クラウドバックアップ		

VAULT [®] Administration					
仮想ドライブ	ライブバックアップ 3	タイムマシーン			
└─ クラウドバックアップ 🔻					
😭 V:¥					

日時指定					
表示日時: 2013/01/09 13 : 20					
▼常に最新のバックアップデータを参照					
決定 閉じる					

VAULT [®] Administration					
仮想ドライブ	ライブバックアップ	タイムマシーン			
○ クラウドバックアップ	✓ 2013/01/09 13:39 -	最新			
😭 V:¥	6				
🛚 🗌 名前 🔺					
🔲 🌗 ピクチャ					
🔲 🛛 🕌 ビデオ					
🔲 🛛 퉬 ೩೨ – ジック					

1 VVAULTの管理画面より、「タイムマシーン」タブを 選択します。

2 「タイムマシーン」タブのメニューより、「クラウドバッ クアップ」を選択します。

※「ローカルバックアップ」が構成されていない場合は、デフォルトで 「クラウドバックアップ」が選択されています。



日時表示部分をクリックします。

- 4 「日時指定」ウィンドウにて、復元対象となる日付を 指定します。
- 5 [決定] ボタンをクリックして、「日時指定」 ウィンド ウを閉じます。





VVAULT 導入ステップガイド [クラウドバックアップ・クライアント編]

ストレージリカバリについて説明します。仮想ドライブを構成するストレージに物理的な障害が発生した場合、構成するストレージから 取り外すと同時に、そのストレージ内に保存されていたデータをバックアップデータから復元します。

step 1 ストレージリカバリを実行する

仮想ドライブタブをクリックし、ツリーメニューより障害が発生しているストレージをクリックし、ストレージ設定画面を開きます。





VAULT [®] Administration							
仮想ドライブ	ライブバックアップ	バックアップサーバ 📲					
\$ 4 \$ 2							
■ ◆ W 3 □ ☆ 最速ストレージ	最速ストレージ 4						
SATA-000	🔲 🧇 SATA-001						
■ 🌮 SATA-001	🔲 🧼 SATA-002						
■ 🏈 SATA-002							







ストレージのアイコンが処理中のものに変わり、ストレージリカバリが実行されます。



VVAULT を新規にインストールした状態から、クラウドにバックアップされている全てのデータを復元する手順について説明します。 この手順はシステムがクラッシュしてしまった場合など、部分的な復元で対応できない障害からの復旧を想定しています。



新規にインストールされたVVAULTの管理ツールより、クラウドバックアップの設定を開きます。



1	「クラウドバックアップ」の設定画面にて、バックアッ
	プサーバの設定を入力します。



「適用」ボタンをクリックして保存します。

3 バックアップサーバにデータが存在する場合、ダイ アログが表示されるので「OK」ボタンをクリックし ます。

Web ページからのメッセージ
復元ポイントが見つかりました。 リカバリモードに変更しますか?
※システムリカバリを実行すると、すでに仮想ドライブ上に作成され ているデータは初期化されます。また以前のクライアント「旧マシン 名」は、このバックアップサーバのクラウドサービスが利用できなく なりますのでご注意ください。
この復元ポイントを削除したい場合は、バックアップデータの初期化 を実行してください。 3
OK キャンセル

65



VAULT [®] Administration	システムリカパリモード(クラウド)				
仮想ドライブ	ライブバックアップ 陸害・警告情報 1 システム設定				
34 S=	促却Fライブ Unmount テ	<アリング ON	C		
 weight (V:) ・ () · ()<th>VVAULT (V.)</th><th>1</th><th></th>	VVAULT (V.)	1			
■ 🍲 高速ストレージ	● 仮想ドライブはアンマウントされています		_		
 ● ◆ 中速ストレージ ● ◆ 係速ストレージ 	・ システムリカい いを開始するはは、データを接元するのに充分な容量のストレージを原想ドライカに追加してください。 ストレージ追加				
	仮想ドライブ設定 ディスクタイゴ : ○固定ディスク ○回定ディスク(ごみ発動が)) ○リムーパブルディスク ドライブルター : [V] 回				
	#りュームラベル : WARLT パッファサイズの目安*: [1] 08 ディアリング : © 第45案(F) C 時間等指定 [10] 時 [11] 分 ~ [10] 時 [11] 分				

ストレージ追加 追加するストレージの情報を入力して決定ボタンをクリックしてください ※管理対象バスに仮想ドライブで公開している共有フォルダは指定しないでください 2						
種類 :	最速ストレージ ▼					
ストレージ名* :	Share					
管理対象バス*:	D:¥Share					
		*				
		~				
オットワークストレージへの接続 コーザ名とパスワードを使用する ユーザ名: PO名(またはドメイン名)ギューザ名 パスワード:						
		決定	キャンセル			



「ストレージ追加」ボタンをクリックし、ストレージ を追加します。

※システムリカバリに十分な空き容量が確保されればこのボタン は表示されません。



不明な場合は「最速ストレージ」で問題ありません。

※復元先として任意の場所を指定できますが、今回は便宜上「スト レージ名」を"share"「管理対象パス」を"D:"とします。




登埋 👻 🛄 聞く 👻 書き込	283 新しい:	フォルター		8	····	0
👉 お気に入り	<u>^</u>	名前	更新日時	種類	サイズ	
= デフクトップ		vvAuLtoK.exe.coming	2012/03/23 12:31	AME CONTIGUIDU	J ND	
	-	VVAULIDR.exe	2012/03/23 19:55	アノリケーション	99 KB	
	-	VVAULTBackup.InstallState	2012/03/23 12:30	INSTALLSTATE	5 KB	
💹 最近表示した場所		VVAULTBackup.exe.config	2012/03/23 12:30	XML Configurati	6 KB	
		VVAULTBackup.exe	2012/03/23 19:56	アプリケーション	162 KB	
🔜 デスクトップ		VVAULT.InstallState	2012/03/23 12:29	INSTALLSTATE	5 KB	
🥅 ライブラリ		🛐 VVAULT.ico	2012/03/21 16:14	アイコン	25 KB	
K+- V.		VVAULT.exe.config	2012/03/23 12:29	XML Configurati	14 KB	
		VVAULTexe	2012/03/23 19:56	アプリケーション	37 KB	h.
🔤 ピクチャ		UserInfoBackup.txt	2012/03/28 11:02	TXT ファイル	1 KB	Т
😸 ビデオ		release.txt	2012/03/23 11:05	IXI J74JU	13 KB	
🎝 ミュージック		Quartz.dll	2012/02/02 19:37	アプリケーショ	428 KB	
🖹 yoshimura		Npgsql.dll	2012/03/21 16:14	アプリケーショ	366 KB	
■ コンピューター		Mono.Security.dll	2012/03/21 16:14	アプリケーショ	276 KB	
		Mail.conf	2012/03/28 11:02	テキスト ドキュ	1 KB	
		log4net.dll	2012/02/02 19:37	アプリケーショ	264 KB	
19 コンドロール パネル		LICENSE.dat	2012/03/23 12:34	DAT ファイル	5 KB	
🕓 コンピューターの簡単操作		install.log	2012/03/23 12:31	LOG ファイル	12 KB	
🎭 システムとセキュリティ		InfiniLicenseChecker.dll	2012/03/23 19:55	アプリケーショ	62 KB	
1月 すべてのコントロール パネ	山頂目 -	Front.dll	2012/03/23 19:56	アプリケーショ	36 KB	

////////////////////////////////////	2	×
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(V) ヘルブ(H)	-7-	
[ACCOUNTS] "admin" "Guest" "Hanako.Orega" "Jiro.Orega" "Taro.Orega" "Taro.Orega" "TAPO.Orega" "WAULTUSer"		•
[GROUPS] "Administrators" "Backup Operators"] "Certificate Service DOOM Access" "Cryptographic Operators" "Distributed COM Users" "Event Log Readers" "Guests" "IIS_IUSRS" "Network Configuration Operators" "Performance Log Users" "Performance Monitor Users" "Power Users" "Power Users" "Print Operators" "Remote Desktop Users" "Replicator" "B習書A" "部署A"		
[GROUP-ACCOUNT-MAP] "Administrators" , admin "Guest"		
"Users" , "Guest", "Taro.0rega", "Hanako.0rega", "Jiro.0rega", "WAULTUser	r″	
『部署A" "Taro.Oresa"		
"部署B""Hanaka Oroga" "Tara Oroga"		



VVAULT インストール先に復元された [UserInfoBackup.txt]をメモ帳などで開きます。

2 クラッシュ前のマシンに作成されていたローカルコ ンピューターのユーザーおよびグループの一覧が 表示されますので、新しい復元先のコンピューター に同名のユーザー、グループを作成してください。 ドメイン環境の場合、ドメインのユーザー、グループ はドメインコントローラにて管理されていますので 作成する必要はありません。

> ※バックアップ時のローカルコンピュータのユーザー、グループの 権限情報は、システムリカバリ後、このユーザー、グループに引き継 がれます。ユーザー、グループを作成しないまま復元を実行した場 合は、権限情報が不正な状態となり、操作できない等の問題が発生 する場合があります。

> また、ドメイン環境でドメインコントローラで管理されているユー ザー、グループ情報がバックアップ時と復元時とで異なる場合、権 限情報を引き継ぐことができませんのでご注意ください。

67





VAULT [®] Administratio					MR 77 aF	© 0 <i>5</i> 79⊦
仮想ドライブ	ライブバックアップ	除害·警告情報 1	システム設定			
34 St			版	超ドライブ Unmount	ティアリング 👥	C
 weight (V:) weight (V:) weight (V:) 	VVAULT (V.)				油用 元	-E4
🖬 🛷 Share	⊖ 仮想ドライブはアンマウント	されています				
 ● 会 高速ストレージ ● 会 中速ストレージ ● 会 低速ストレージ 	仮想ドライブ設定 ディスクタイプ : ◎ 励 ドライブレター : V: Ξ ポリュームラベル : VVAI バッファサイズの日安*:	電ディスク C 固定ディスク/ごみ] JILT 10 GB	梅奴J〉 C リムーバブルテ	429		
	ティアリング : @ 米#	今実行 ○時間帯指定 □□ 💌	時回烹分~回烹時	00 💌 分		



2 システムリカバリが完了すると、ヘッダが通常色(黒
 色)に変わり、設定されたメールアドレスへ結果メールが送信されます。



システムリカバリに関するご注意

VVAULT3.0.1 より古いバージョンのVVAULT のバックアップに保存されているグループ情報には、グループの構成 情報が含まれておりません。システムリカバリ後に正しくアクセスするにはグループを正しく構成する必要がありま す。VVAULT3.0.1 以降ではグループの構成情報も保存されます。(バックアップサーバ側も3.0.1 以降である必要が あります)

② UserInfoBackup.txt - メモ帳	- • •
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(Y) ヘルプ(H)	
"user","Administrator"	Â
"user","Guest"	
"user","postgres"	
"user","setup"	
"user","VVAULTUser"	
"user","yoshimura"	
"group","Administrators"	
"group","Backup Operators"	
"group","Cryptographic Operators"	E
"group","Distributed COM Users"	
"group","Event Log Readers"	
"group","Guests"	
"group","IIS_IUSRS"	
"group","Network Configuration Operators"	
"group","Performance Log Users"	
"group","Performance Monitor Users"	
"group","Power Users"	
"group","Remote Desktop Users"	
"group","Replicator"	
"group","Users"	
۲. III	• •

UserInfoBackup.txt の旧フォーマット

VVAULTのバックアップおよびタイムマシーン機能を有効に構成することにより、任意時点のバックアップ状態から個別に復元対象を 選択して仮想ドライブに復元することができるようになります。 下記の手順に従い、バックアップからファイルを個別に復元します。

STEP 1 復元元のソースを選択する

VAULT [®] Administratio	on	1
仮想ドライブ 2	ライブバックアップ	タイムマシーン
ダローカルバックアップ	⊘ 2013/01/09 13:20	
② ローカルバックアップ		
🛆 クラウドバックアップ		

1 VVAULTの管理画面より、「タイムマシーン」タブを 選択します。

2 「タイムマシーン」タブのメニューより、「クラウドバックアップ」を選択します。

※「ローカルバックアップ」が構成されていない場合は、デフォルト で「クラウドバックアップ」が選択されています。



VAULT [®] Administra	ation	
仮想ドライブ	ライブノ <mark>ー・・</mark> シプ	タイムマシーン
△ クラウドバックアップ 🔹	✓ 2013/01/09 13:20	
😭 V:¥		



1 日時表示部分をクリックします。



「日時指定」ウィンドウにて、復元対象となる日付を 指定します。

3 [決定]ボタンをクリックして、「日時指定」 ウィンド ウを閉じます。



	クラウ	ドバックアップ 🔻 🛇 2013/01/09 14:27
	V:¥Ľ?	7 チャ
8		名前 🔺
		📔 その他の画像
	V	🔄 Chrysanthemum.jpg
	v	🔄 Desert.jpg
	1	🔄 Hydrangeas.jpg
		🔄 Jellyfish.jpg



参照したいフォルダーを選択し、復元対象のファイ ルを表示します。

※復元対象のファイルが保存されているフォルダーが表示されていない場合は「復元対象となる日時を指定する (P.69)」に戻り、時間を変更します。

復元状況	設定 C
	復元
更新日時	サイズ







※フォルダーごと復元する場合はフォルダーにチェックを入れてく ださい。

3 「復元オプション」ウィンドウにて、必要に応じてオ プションを選択し「決定」をクリックします。

> ※ここではオプションを変更せず、デフォルトの状態のままとしま す。



確認ダイアログが表示されるので「OK」をクリック します。







フォルダー作成の確認のダイアログが表示された 場合は [OK]をクリックします。



処理実行の確認ダイアログが表示されるので「OK」 をクリックします。









「復元状況」をクリックして、「復元状況」ウィンドウ を表示します。



※状態が「復元成功」以外の場合は、「復元成功」になるまでお待ち ください。





3 仮想ドライブより復元先のフォルダーを参照し、復 元データを確認します。



VVAULT 導入ステップガイド [クラウドバックアップ・クライアント編]

VVAULTの構成ストレージの管理対象パス直下に自動的に作成される管理フォルダーの設定が、VVAULT4.1.0以降変更となりました。これまではVVAULTの管理フォルダ(「VVOOO」など)にはアクセス可能な設定となっておりましたが、VVAULT4.1.0以降ではデフォルトで「隠しファイル」属性の付与と、NTFS にてフォーマットされたローカルハードディスクの場合には「セキュリティ」を設定し、管理フォルダーへの不用意なアクセスを制限しています。

ここではVVAULTのアンインストール後や、何らかの理由で管理フォルダー内のファイルにアクセスする必要のある場合の手順につい て説明します。

1. Windows Server 2008 / 2008 R2、Windows Vista / 7の場合

管理フォルダーは「隠しファイル」 属性が設定されているため、管理対象パスをエクスプローラーにて参照した場合、 デフォルトの設定 では表示されません。 下記の手順に従い、 管理フォルダーを表示させます。







管理権限のあるユーザーで、「スタート」より「コント ロールパネル」を開きます。

2 「コントロールパネル」の「カテゴリー」より「デスクトップのカスタマイズ」または「デザイン」を選択します。

※設定によって、カテゴリーが表示されていない場合があります。 その場合は「フォルダー オプション」を選択してください。

3 「フォルダー オプション」の「すべてのファイルとフ ォルダーを表示」を選択します。



イ 「フォルダー オプション」の「表示」タブの「詳細設定」にて「ファイルとフォルダーの表示」の「隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する」を選択します。
 5 「適用」をクリックします。
 6 「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。

次にセキュリティによりアクセスが制限されている場合、下記の手順に従い、アクセス権限を追加します。









アクセス許可の確認ダイアログにて 「続行」をクリ ックします。



2. Windows Server 2003 R2 の場合

下記の手順に従い、管理フォルダーを表示させます。







管理権限のあるユーザーで、「コントロールパネル」 「フォルダ オプション」を選択します。

「フォルダ オプション」画面の「表示」タブの「詳細 2 設定」にて「ファイルとフォルダの表示」の「すべて のファイルとフォルダを表示する」を選択します。



「適用」をクリックします。

[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。

次にセキュリティによりアクセスが制限されている場合、下記の手順に従い、アクセス権限を追加します。

ファイル(E) 編集(E) 表示(公) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H) ③ 戻る ・ ③ ・ ④ / ● 検索 ⑥ フォルダ ⑧ ● ★ ⑤ Ⅲ・ アドレス(D) ⑥ E¥main2 5 ● E¥main2 5 ● マイズ 種類 更新日時 102,710-500 検索(E). 共有とセキュリティ(H).	🗁 E:¥main2	
 ○ 戻る ・ ○ ・ ⑦	ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール	ND ANITH 🥂
アドレス(2) E¥main2 5 ▼ 参数 名前 サイズ 種類 更新日時 マイル フォルダ 2012/11/15 1228 2012/11/15 1228 ビタスフローラ(2) 検索(2) 共有とセキュリティ(4)	🔇 戻る 🔹 🕥 🔹 🏂 🔎 検索 🌔 フォルダ 📑 😰 🕃	» 🗙 🍤 🛄 -
名前 ザイズ 種類 更新日時 . ▼ ア ファイル フォルダ 2012/11/15 1228 ゴクスプローラ公 検索(E) 共有とセキュリティ(L)	アドレス(D) 🗁 E:¥main2 5	💌 🄁 移動
▼ V000 「(V)000	名前 ガイズ 種	(類 更新日時 属)
送る(M) 切り取り(T) コピー(Q) ショートカットの作成(S) 削除(D) 名前の変更(M) フロパティ(R)	■ W000 「「KQ) エクスプローラ⊗ 検索(E). 共有とセキュリティ(H). 送る(M) づり取り(T) コピー(Q) ショートカットの作成(S) 削除(D) 名前の変更(M)	ァイル フォルダ 2012/11/15 1228 H

管理フォルダーを選択し、右クリックメニューより 「プロパティ(R)」を選択します。

ルルのフロバティ			2
般 共有 セキュリティ カスタマイ	ズ		
グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):			
SYSTEM			
	6		
	追加(<u>D</u>)	削除(<u>R</u>)	
SYSTEM のアクセス許可(P)	許可	拒否	
די בארב אר			-
変更 きっ.mnu中に			
。 読み取りと美け フォルダの内容の一覧表示	N N	H	
読み取り			
書き込み			•
特殊なアクセス許可または詳細設定を調	表示する(こは、「詳	詳細設定♡	
細設定」をクリックしてください。	_		
	_	1	
OK	1711	() () () () () () () () () () () () () (103

ユーザー または グルーナ の選択		? ×
オブジェクトの種類を選択してください(S):		
ユーザー、グループ または ビルトイン セキュリティ プリンシパル		オブジェクトの種類(<u>O</u>)
場所を指定してください(E): 7		
OREGA-26PHRPU10		8
)遅択するオブジェクトタを入力してください((M)(F)-	-	
		々論の瞬間(の)
OREGA-26PHRPU1U¥Administrators]	9	
詳細設定(<u>A</u>)	ОК	キャンセル

VV00007U/\74		? ×
全般 共有 セキュリティ カスタマイン	<]	
グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):		
🙍 Administrators (OREGA-26PHF	RPU10¥Administrator	·s)
SYSTEM		
	I	
10	<u>追加(D)</u>	<u>削除(R)</u>
Administrators のアクセス計す(P)	許可	拒否
フルコントロール		
		=
変更 読み取りと実行		
	<u>।</u>	
変更 読み取りと実行 フォルダの内容の一覧表示 読み取り	য য য য	
変更 読み取りと実行 フォルダの内容の一覧表示 読み取り 書き込み	<u>।</u> বে বে বে ব	
変更 読み取りと実行 フォルダの内容の一覧表示 読み取り 書き込み 特殊なアクセス許可または詳細設定を表	マ マ マ マ マ 、 で 、 で	
変更 読み取りと実行 フォルダの内容の一覧表示 読み取り 書き込み 特殊なアクセス許可または詳細設定を表 細設定]をクリックしてください。 12	ی ی ر ب ب≣ ایکه تیت	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

6

管理フォルダーの「プロパティ」画面の「セキュリテ ィ」タブより、「追加」をクリックします。



🗁 E:¥main2¥VV000					
ファイル(<u>E</u>) 編集(<u>E</u>) 表	₅⊼⊘	お気(c入り(<u>A</u>) 、	ソール(T)	ヘルプ(円)	
🔇 戻る 🔹 🕥 🕤 🏂 🍃	◯ 検索	🜔 วรมชี 🛛 🕞	7 🕑 🗙	9 📰	
アドレ2 13 🛅 E:¥main2¥*	VV000				
名前		サイズ	種類		更新
California Share01			ファイル フ	フォルダ	2012/



3. Windows XPの場合

下記の手順に従い、管理フォルダーを表示させます。





管理権限のあるユーザーで、「コントロールパネル」 を開きます。



「コントロールパネル」より「デスクトップの表示と テーマ」を選択します。

※設定によって、カテゴリーが表示されていない場合があります。 その場合は「フォルダ オプション」を選択してください。







「デスクトップの表示とテーマ」より「フォルダ オプ ション」を選択します。



「フォルダ オプション」画面の「表示」タブの「詳細 設定」にて「ファイルとフォルダの表示」の「すべて のファイルとフォルダを表示する」を選択します。



「適用」をクリックします。

「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。

次にセキュリティによりアクセスが制限されている場合、下記の手順に従い、アクセス権限を追加します。





😂 VV000
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)
G 戻る マ 🜍 マ 🏂 🔎 検索 🎼 フォルダ 🛄 12
アドレス(D) 🛅 C:¥Storage¥main2¥VV000
Shared
🧭 新しいフォルダを作成する
Cのフォルタを Web に公開する Cのフォルダを共有する Cのフォルダを共有する Cのフォルダを共有する Cのフォルダを共有する Cのフォルダを共有する Cのフォルダを共有する Cのフォルダを共有する Cのフォルダを共有する Cのフォルダを Cの Cのフォルダを Cのフォルダを Cのフォルダを Cのフォルダを Cのフォルダを Cのフォルダを Cのフォルダを Cの Cのフォルダを Cの Cのフォルダを Cのフォルダを Cの Cのフォルダを Cのフォルダを Cの Cの Cのフォルダを Cの Cのフォルダを Cの Cの Cのフォルダを Cの Cの Cのフォルダを Cの Cの



「スタート」メニューの「すべてのプログラム」「アク セサリ」より「コマンドプロンプト」を選択します。



想定する構成について

VVAULTによって管理されたストレージのデータを通常の状態に復元する方法について説明します。この手順は下画像のように仮想 ドライブが構成されていることを想定しています。尚、仮想ドライブが有効でない場合の手順についても説明しますが、この場合はセキ ュリティ情報やファイル属性を完全に復元することはできません。



▼ 仮想ドライブが有効な場合の手順

STEP 1 共有されているフォルダーの共有を解除する

対象となる「部署A」「部署B」両方のフォルダーに対し、以下の手順を実施し、共有設定を解除します。



仮想ドライブ上で共有フォルダー設定されているフォルダーのプロパティを表示し、「詳細な共有」をクリックします。

細な共有 	
▼ このフォルダーを共有する(S)	
~ 設定	
部署A	-
追加(A) 削除(R)	
ー 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	E
(O) אראב	
2	
アクセス許可(P) キャッシュ(C)	
OK キャンセル 適用	

📜 部署A のアクセス許可		×
共有アクセス許可		3
グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):		
& 部署A (WIN-UAVSHB8637L¥部	署A)	
	追加(<u>D</u>)	肖J除(<u>R</u>)
部署A のアクセス許可(P)		
עב אר		
変更		
言元が月灯	M	
고 타나고 소리했다. 그 타나고 라는 그 소프 옷이라 ㅎ ㅋ	-1 + +	
<u>アウセス制御とアウセス計可切詳細を表示</u>		
ОК	キャンセル	適用(<u>A</u>)

詳細な共有	x
▼ このフォルダーを共有する(S)	
共有名(H):	
IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	
追加(A) 肖耶余(R)	
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721:	
O)- الرلاב	
アクセス許可(P) キャッシュ(C)	
OK キャンセル 適用	





3 共有設定情報を控えます。



4 共有設定情報を控え終わったら、「このフォルダー を共有する」のチェックを外して共有を解除します。

STEP 2 仮想ドライブのセキュリティ情報を保存する

仮想ドライブに対してフルコントロール権限を持つユーザーにてコマンドプロンプトを開き、下記のコマンドを入力して「部署A」(階層 化含む)のセキュリティ情報を保存します。

画管理者:コマンドプロンプト ■ロメ Microsoft Windows [Version 6.1.7601] Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation, All rights reserved.	1 コマンドプロンプトより仮想ドライブに移動します。
C:¥Users¥Administrator>V:	V:
Y:¥)icacls . 岩野署A /t /c /save C:¥work¥busho_a_acl.bin [*] 処理ファイル: . 光野署A 処理ファイル: . 光野署Aギフォルダ1 処理ファイル: . 光野署Aギフォルダ2 処理ファイル: . 光野署Aギフォルダ3 処理ファイル: . 光野署Aギフォルダ3 処理ファイル: . 光野署Aギフォルダ1 ギファイル2.txt 処理ファイル: . 光野署Aギフォルダ1 ギファイル2.txt	2 仮想ドライブ上で下記コマンドを実行します。
処理ファイル: - 昭暦4Fフォルメ1キファイル3 - txt 処理ファイル: - 昭暦4Fフォルダ2ギテンブレート1 - tff 処理ファイル: - 昭暦4Fフォルダ2ギテンブレート2 - tff 処理ファイル: - 昭暦4Fフォルダ2ギテンブレート3 - txt 10 個のファイル・記葉に如明さかました。 10 個のファイルを処理できませんでした	icacls .¥ 部 署A /t /c /save C:¥work¥busho_ a_acl.bin
V:¥>	※上の例では"C:¥work¥busho_a_acl.bin" ファイルに仮想ドラ イブの部署Aフォルダの階層下を含むセキュリティ情報が保存され ます。
	3 仮想ドライブ上の部署B フォルダについても別のフ ァイルを指定してセキュリティ情報を保存します。
	※Windows XP ではセキュリティ情報を保存するコマンドが用意 されていないため、この手順は利用できません。STEP3 を実施後、

STEP 3 仮想ドライブ上のフォルダーを別ドライブへ移動する



エクスプローラより、仮想ドライブ上の「部署A」フ ォルダーを空き容量のあるドライブに移動します。

ここでは移動先をC: 直下とします。

手動にてセキュリティ情報を復元してください。

「部署B」フォルダーについても同様に移動します。

STEP 4 移動先のフォルダーにセキュリティ情報を復元する

STEP2 にて保存したファイルを用い、STEP3 にて移動したコンテンツのセキュリティ情報を復元します。

回答理者: コマンド プロンプト Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved. V:¥>C: C:¥Users¥Administrator>cd C:¥ C:¥>icacls . /restore C:¥work¥busho_a_acl.bin 処理ファイル: .将署A 処理ファイル: .将署A	1	コマンドプロンプトよりSTEP3 の移動先ドライブ に移動します。 C:
処理ファイル: .キキル著A¥フォルダ2 処理ファイル: .キル署A¥フォルダ3 処理ファイル: .キル署A¥フォルダ1¥ファイル1.txt 処理ファイル: .キル署A¥フォルダ1¥ファイル2.txt 処理ファイル: .キル署A¥フォルダ1¥ファイル3.txt 処理ファイル: .キル署A¥フォルダ2¥テンプレート1.rtf	2	移動先フォルダに移動します。 cd C:¥
	3	下記コマンドを実行します。 icacls ./restore C:¥Work¥busho_a_acl.bin
	4	部署Bのセキュリティ情報についても同様に復元し ます。

STEP 5 移動先のフォルダーに共有設定を復元する

対象となる「部署A」「部署B」両方のフォルダーに対し、以下の手順を実施し、共有情報を復元します。



仮想ドライブ上で共有フォルダー設定されているフ ォルダーのプロパティを表示し、「詳細な共有」をク リックします。

詳細な共有 2
✓ このフォルダーを共有する(S)
また 共有名(H):
部署A
追力()(A) 前/形余(R)
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721
i(0)، در ا
3
アクセス誌午可(P) キャッシュ(C)
OK キャンセル 適用

1	部署A のアクセス語 4		×			
	共有アクセス許可					
	グループ名またはユーザー名(<u>G</u>):					
	&部署A (WIN-UAVSHB8637L¥部	署A)				
	,	追加(D)	削除(R)			
	部署をのつわれつきたす(の)					
		i+oj				
	レージル コントロール 家軍		- H - III			
	- L		I			
	アクビスや川峰とアクビス活ナドリの活手施である示します。					
	ОК	キャンセル	適用(<u>A</u>)			

詳細な共有
設定
共有名(H): 部署A
注自力((A) 肖耶余(R)
同時に共有できるユーザー数(L): 1677721 <u></u>
ユメンK(0):
OK キャンセル 適用

2 「このフォルダーを共有する」にチェックを入れます。



「アクセス許可」ボタンをクリックします。



記録していた情報から、「部署A」の共有設定を復元します。

※共有設定の詳細については「4 仮想ドライブを構成する」の「既存 の共有フォルダを移行する場合」の手順「対象のフォルダーを共有 する (P.40) 」を参照してください。



全ての設定を復元したら、「OK」をクリックします。

STEP

管理フォルダーのデータを統合する





 VVAULTの構成ストレージとして追加されていた フォルダーには、同一のフォルダー階層が作成され、 ファイルが分散されて管理されます。
 今回の例では 仮想ドライブ上で「V: ¥部署A」と表現されている フォルダーは、
 [C: ¥Storage1 ¥VV000 ¥部署A」と
 [D: ¥Storage2 ¥VV000 ¥部署A」を合わせたも のになります。

「C: ¥Storage1 ¥VV000 ¥部署A」と
 「D: ¥Storage2 ¥VV000 ¥部署A」を統合するため、エクスプローラよりそれぞれC: 直下に移動し統合します。

「部署B」のフォルダーも同様に、D: 直下に移動し統 合します。

STEP 2 個別にセキュリティ情報を構成する

仮想ドライブが無効な場合はセキュリティ情報を復元できないため、手動での再構築が必要です。



フォルダのプロパティのセキュリティタブより、セキ ュリティを設定します。

※セキュリティ設定の詳細については「4 仮想ドライブを構成する」 の「仮想ドライブを共有する場合」の「フォルダーのアクセス権を設 定する (P.29) 」を参照してください。



共有設定についても、仮想ドライブが無効な場合は復元できないため、手動での再構築が必要です。

🔋 部署Aのフロバティ 🛛 🛛 🔀
全般 共有 セキュリティ 以前のバージョン カスタマイズ NFS 共有
 ネットワークのファイルとフォルダーの共有 部署A 共有 ネットワーク パス(N): ¥¥Win-uavshb86371¥部署a
共有(S)… 一詳細な共有 カスタムのアクセス許可を設定したり、複数の共有を作成したり、その他の詳
細な共有のオブションを設定したりできます。
共有フォルダーにアクセスするには、ユーザー アカウントとパスワードが必要です。 この設定を変更するには <u>ネットワークと共有センター</u> を使用してください。
開じる キャンセル 適用(合) ヘルプ



※共有設定の詳細については「4 仮想ドライブを構成する」の「既存 の共有フォルダーを移行する場合」の手順「対象のフォルダーを共 有する (P.40) 」を参照してください。

8 セキュリティ対策ソフトを設定する

VVAULT 導入ステップガイド [クラウドバックアップ・クライアント編]

セキュリティ対策ソフトを設定する

代表的なセキュリティ対策ソフトをVVAULTと組み合わせて使用する場合の設定方法について説明します。 VVAULTと組み合わせて利用する場合、基本的な設定はVVAULTの仮想ドライブおよびローカルバックアップ、バックアップサーバ に追加したストレージの管理対象パスすべてをセキュリティ対策ソフトの例外に設定し、直接スキャンさせないようにする必要があり ます。



管理画面より、仮想ドライブおよびローカルバック アップに設定したすべてのストレージの管理対象 パスを控えます。

Symantec Endpoint Protection 12 の設定方法









「設定の変更」より、VVAULTのストレージの管理 対象パスを「例外」に追加します。 例外の「オプションの設定」をクリックします。





フォルダーの参照	×
セキュリティリスクのフォルダ例外の追加	
🕀 🌗 PerfLogs	-
🕀 🕕 Program Files	
🕀 🕕 Program Files (x86)	
🖃 📙 Storage	
	T
例外の種類: 6 すべてのスキャン ア マ サブフォルダを含む OK キャンセノ	•



「追加」をクリックします。

4 「セキュリティリスク例外」「フォルダ」を選択します。

5 VVAULT の仮想ドライブおよびローカルバックア ップのストレージの「管理対象パス」に設定した内 容を追加します。



「サブフォルダを含む」をチェックします。



「OK」をクリックします。

ウイルスバスター コーポレートエディションサーバ バージョン10.6 の設定方法



<u> 192.168.7.164 - ウイルスパスター :</u>	ーポレートエディション - \	Windows Internet Explor	er				
A ttps://192.168.7.164: A ttps://192.168.7.164 A ttps://192.168 A ttps://192.168	4343/officescan/console/	html/ogi/ogiChkMasterPwd	exe 👱 😨 証明書の)	17- +)	Live Sea	arch	4
🍃 🅸 🛛 🏀 192.168.7.164 - ウイルスノ	マンシー コーポレートエディショ	2		6) • 🖾 • 🖶	• 🔂 K-9	(P) • () ツール()
🥑 IREND ウイルスパ	スター[™] ⊐-#レートエ	ディション		8 1	<u>oot</u> 🖧 <u>0.9</u> .3	12 🕜 🗔	····· ^Jt7-····· <u>·</u>
現在のサーバ: 192.168.7.164							
-	クライアント管理					2	気示更新 🛃ヘルプ
すべてのドメインでScanNow	クライア・ホットトからドッインオ	たけてルビューク名を灌掘し、次日	こ クライア・ホッパト・トレールテ	315970	(351つな課題して)	べたね)。	
で実行	Tulin-Antita	interest of the case of the		Diaz.			
サーハアッファート	17C1-301840		2 10.00	inte all			
	クライアントツリー表示: すべ:	(表示 🔹			th / SGLID: 2663	od3a-06b3-4ee	Heech-63b5eeebffl e
積要	an an Mana-	Think - To off the		in a	2		
セキュリティコンプライアンス	M8.77-97 EX7						
ネットワーク上のコンピュー	うイルスパスター Corp.D	· 検索設定 >>	秋南方法	待機_	ドメイン階層	接続ステー	GUID
クライズの小袋根 ト	- (j) workeroop	年動監視設定	手動検索の設定	19920	Workgroup#	オンライン	a/311a90-006b
77177184		デバイスコントロール設定	リアルタイム検索の設定				
定		アップデートエージェンを設定	子的扶東の設定				
グローバルクライアント設		権限とその後の設定	ScanNowの設定				
定							
コンピュータの位置		通知のサービスの設定					
 → ファイアウォール 		設定のエクスポート					
 クライアントのインストール 		設定のインボート					
接続状態の確認	L	_	-				
大規模感染予防サービス							
Smart Protection							
アップデート							
アップデート ログ							
アップデート ログ Cisco NAC							



2 「ネットワーク上のコンピューター」の「クライアント管理」から、VVAULTのインストールされているマシンを選択し、「設定」をクリックし、「検索設定>>」から「手動検索の設定」をクリックします。

表示される設定ウィンドウの「検索除外」にて、VVAULTのストレージの管理対象パスを除外リストに追加します。

動検索の設定	🛛 ヘルブ
f ● 如理	
未险外	<u> </u>
(金布段从东京的Lint A	
すべての検索タイプに検索験外設定を適用する	
検索除発リスト(ディレクトリ)	
ディレクト100パスを入力してください(例: C)iternoie.scludeDir)。	
1011101111111111111111111111111111111	
○ クライアンナコンピュータの紛外リストの上書き 4	
⑦ クライアントコンピュータの病外リストへのパスの追加	
○ クライアントコンピュータの解外リストからのパスの御除	
CANStorageWinain2)2010	
CHStorage#main1 #10%	
6	
i <u>A</u>	•
昇在 キャンセル	



6 「保存」をクリックします。

他のすべての検索設定でも、除外リストにパスが追加されたことを確認します。

ウイルスバスターから仮想ドライブが認識されるように、ディスクタイプを変更します。



管理画面の「仮想ドライブ設定」より、「固定ディスク (ごみ箱あり)」を選択し、「適用」をクリックします。 コンピューターを再起動します。

ウイルスバスター コーポレートエディションサーバ バージョン10.6 をインストールする 場合のご注意

VVAULT がインストールされている状態でウイルスバスターコーポレートエディションのインストール画面にて HTTP サーバとしてIIS を選択してインストールする場合、インストールに失敗します。この問題を回避するために、ウイ ルスバスターのインストール前にすべてのVVAULT のサービスを停止してからインストールしてください。なお、ウイ ルスバスターのインストール画面にてHTTP サーバとしてApache2.0 を選択する場合は、そのままインストールする ことができます。

🔍 サービス					_	
ファイル(E) 操作(A)	表示(V) ヘルプ(日)					
	à 😹 🛛 🖬 🕨 🔳 🕕 🕩					
🤍 サービス (ローカル)	😋 サービス (ローカル)					
	VVAULT Backup Database	名前 ^	説明 ディフ	状態	スタートアップの種類	[*]
	Service	Volume Shadow Copy	パック	18190	千動	Ľ
	サービスの停止 サービスの一時停止	VVAULT Backup Database Service	1 10 7 10	開始	自動	
	<u>サービスの再起動</u>	VVAULT Backup Service		開始開始	自動自動	L A
		VVAULT DR Service		開始	自動	Ĺ
		VVAULT Virtual Drive Service VVAULT Web Console Service		開始	自動 自動	L
		Web Management Service	Web		手動	L
		Windows Audio	Windo		牛動 手動	L
		🌉 Windows Audio Endpoint Builder	Windo		手動	
		Windows CardSpace	デジタ		手動	L
		Windows Lotor System	wcsPl 2/84	開始	于190 自動(遅延開始)	 ▶
	\拡張 ⟨標準/					_

VVAULTから始まるすべてのサービスを停止します

McAfee VirusScan Enterprise 8.7iの設定方法

 Internet Explorer (64 ビット) Internet Explorer Windows Update McAfee McAfee グロンスキャン オンデマンド スキャン VMware VVAULT アクセサリ スタートアップ メンテナンス 管理ツール 	Administrator ドキュメント コンピューター ネットワーク コントロール パネル デバイスとプリンター 管理ツール ヘルプとサポート ファイル名を指定して実行…
 ◆ 前に戻る	Windows セキュリティ
プログラムとファイルの検索	●
🏹 XA-F 🍓 ⊿ 🚞	



コンソールより、VVAULTのストレージの管理対象パスを「例外」に追加します。



🌮 除外対象の設定	×
シング スキャンから除外するファイル、フォルダ、およびドライブをざ	選択してください。
項 サブフォルダを除外 読み取り/書き込み	OK T
	追加(A)
	編集(B)
	肖『序(<u>C</u>)
	消去(D)
	ヘルプ(<u>E</u>)

😼 除外項目の追加 🛛 🗧 🗵					
除外対象					
○ 名前/場所で指定 (ワイルドカードとして * または ? が使用可能) (A):					
C.¥Storage¥main 1¥ 参照(E)					
▼ サブフォルダも除外(□)					
○ 拡張子で指定(ワイルドカードとして * または ? が使用可能)(B):					
○ ファイルの保存期間で指定(C):					
アクセス タイプ(G): 保存日数(1):					
更新日時 🔽 1 🛃					
○ Windows ファイル保護機能で保護されているファイル(₩)					
_ 除外条件					
▼ 読み取り時(」)					
▼ 書き込み時(K)					
OK キャンセル ヘルプ(L)					

10 m コンソール			
タス <mark>クロー 編</mark> 集(B) 表示(C) ツール(D) ヘルプ(<u>E</u>)		
🖆 🕨 🗈 🛍 😫 💁 🔛	<u>8</u> 🔀 🕅		
タスク	状態	最終結果	最終実行
1 2 アクセス保護	有効		
🖃 配信時の電子メール スキャン	有効		
◎ 不 11 5ム ポリシー	不審なプログラムのカ		
♥ オンテラ _ スキャン	有効		
🚇 Quarantine Manager のポリシー	検疫フォルダには、0 ア		
👿 フル スキャン	スケジュールが設定さ		
	日単位: 17:00	アップデートに成功しま	2012年5月16日 14:1…
-			
L .			
•			
VirusScan コンソール			11.



7 「除外対象の設定」にて「追加」をクリックします。



8 「除外対象」としてVVAULTのストレージの管理対 象パスを選択し、「サブフォルダも除外」にチェック します。



[OK]をクリックします。 他のすべての管理対象パスも追加します。



10 プロパティをクリックします。



11 「フルスキャン」を選択します。



[™] 14 コンソール			
タスク(」 (B) 表示(C) ツール	(D) ヘルプ(E)		
	I <u>& 2 V</u>		
タスク	状態	最終結果	最終実行
🐉 アクセス保護	有効		
🖃 配信時の電子メール スキャン	有効		
◎ 不審 15 ↓ ポリシー	不審なプログラムのカ		
🚺 オンア <mark>ノニー ハー</mark> ヤン	有効		
🚇 Quarantine Manager のポリシー	検疫フォルダには、0 ア		
👿 フル スキャン	スケジュールが設定さ…		
<mark>- 僧 自動アップデード</mark>	日単位: 17:00	アップデートに成功しま	2012年5月16日 14:1…
1			
5-1			
VirusScan コンソール			11.





「除外」タブを表示します。

13 「除外対象」をクリックします。
 「除外対象」にストレージに設定された管理対象パスを「オンアクセススキャン」と同様に設定します。



15 「フルスキャン」を選択します。



17 「除外対象」をクリックします。「除外対象」にストレ ージに設定された管理対象パスを「オンアクセス スキャン」と同様に設定します。



VVAULT 導入ステップガイド [クラウドバックアップ・クライアント編]

VVAULTをアンインストールする

夏ブログラムと機能		
- גיא א-חאעב א 🔄 🗢 🔾	・すべてのコントロールパネル項目 ・ ブログラムと機能 🛛 👻 🔽	プログラムと機能の検索
コントロール パネル ホーム インストール された更新 プログラムを 表示 ● Windows の様能の有効化または ネットワークからプログラムをインスト ・	Constraint Con	クロックムとTenesONE *** 22 アノインストールは、回転用しまたは「時間」を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	 () OREGA Inc. 製品パージェン: 30.0 ヘルプのリンク http://wault.jp/ 	サポートのリンク: http://wault.jp/ 更新情報: http://wault.jp/









一覧より 「VVAULT」を右クリックし、「アンインスト ール」をクリックします。



確認ダイアログが表示されるので 「はい」をクリッ クします。



アンインストールが始まります。



確認ダイアログが表示されるので [はい]をクリッ クします。





5 確認ダイアログが表示されるので [はい]をクリッ クします。



9 アンインストール



VVAULT 導入ステップガイド [クラウドバックアップ・クライアント編]

共有フォルダーにSYSTEM権限を追加する

VVAULT の仮想ドライブ上の共有フォルダーにSYSTEM のフルコントロール権限が付与されていない場合、共有経由でアクセスするとエラーとなる問題が発生します。

この手順は上記問題に対応するため、仮想ドライブ上の共有フォルダーにSYSTEMの権限が設定されていない場合にSYSTEMのフ ルコントロール権限を追加する方法について説明します。



 Ø Internet Explorer Ø Internet Explorer (64 ビット) 2 Windows Update ■ Windows アドレス帳 	2
📔 Extras とアップグレード 📔 VVAULT	Administrator
アクセサリ アクセサリ エクスプローラ	۴キュメント
 <u>■ コマンド ブロンプト</u> <i>□</i> ファイル名を指定して実行 	コンピュータ
☆ ペイント	ネットワーク
粂」 リモート デスクトップ接続 員 ワードパッド	コントロール パネル
🗐 電卓 鷆 コンピュータの簡単操作	管理ツール・
🄑 システム ツール 🔑 サクラエディタ	ヘルプとサポート
↓ スタートアップ ▲ メンテナンス	ファイル名を指定して実行…







3

「アクセサリ」を開いて「コマンドプロンプト」をクリ ックします。



コマンドプロンプトが表示されたら下記のコマンド を入力します。 icacls V:\Shared01 /grant SYSTEM:(F)

※この例では「V:\Shared01」が共有フォルダーとして設定されていることを想定しています。ご利用の環境に合わせて変更してください。

変更後、「Enter」キーを押してコマンドを実行します。
om 管理者: コマンド プロンプト	_ 🗆 🗡
Microsoft Windows [Version 6.0.6001]	A
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.	5
C:¥Users¥Administrator.OREGA3>icacls V:¥Shared01 /grant SYSTEM:(F)	
処理ファイル: V:¥Shared01	
1 個のファイルが正常に処理されました。0 個のファイルを処理できませんで	どした
C:¥Users¥Administrator.OREGA3>_	

👝 VVAULT (V:)			
GO ~ - ·	・コンピュータ + VVAULT (V:) +		
🕒 整理 👻 📗	表示 🔻 🗊 開く 👧 共有		
名前	✔ 更新日時 👻 📘 種類		
👦 Shared01	開く(O) エクスプローラ(X)		
	共有(H) 以前のバージョンの復元(V)		
	送る(N) 🕨		
	切り取り(T) コピー(C)		
	ショートカットの作成(S) 削除(D) 名前の変更(M) 6		
	プロパティ(R)		

🌡 Shared01のプロパティ 🛛 🛛 🛛 🛛				
全般 共有	セキュリティ 以前のバージョン カスタマイズ			
オブジェクト名:	V:¥Shared01 7			
グループ名また	はユーザー名(@):			
& SYSTEM				
🔒 🔒 userA (u	ser A@orega3.co.jp)	L		

5 実行結果が表示されます	f 。
---------------	------------





セキュリティに [SYSTEM] が追加されたことを確認します。

Windows XPでのVVAULT ルート証明書の登録手順

Windows XP にてクラウドバックアップの設定をして、接続を行うとエラーとなります。 エラーを解消するには、手動でルート証明書を登録する必要があります。 この手順は上記問題に対応するため、VVAULT のルート証明書のインストール方法について説明します。

Administrator		
く Google Chrome	ジマイドキュメント み近使ったファイル(<u>D</u>) →	
増エメール Microsoft Office Outlook	⊘ マイ ピクチャ	
W RADE	עפעיבא איז איז אירבאלב איז	
リモート デスクトップ接続	→ コントロール パネル(Q) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
Tera Term	 	
Windows Update	うしつ プリンタと FAX	
	 へルブとサポート(<u>H</u>) 	
	- マスホッピノ - ファイル名を指定して実行(R)	
すべてのプログラム(<u>P</u>) 📡	衫 操作マニュアル	
💋 ログオフ 🕐 🧿 終了オプション 🖤		
🦺 スタート 🌎 VVAULT® - Google 🕒 main1		

ファイル名	を指定して実行
-	実行するプログラム名、または開くフォルダやドキュメント名、インターネ ットリソース名を入力してください。
名前(<u>O</u>):	mme
	2 OK キャンセル 参照(B)

א-עעב 🚡		
ファイル(E) 操作(A) 表示(V) お気に入り(Q)	ウインドウ(W) ヘルプ(H)	
新現作成(N) Ctrl+N		
スナップインの追加と削除(M) CtrHM		
オブション(1)	このビューに表示する項目はありません。	
1 C#WINDOWS¥¥devmgmt.msc		
終了00		
スナップインを追加したり、スナップイン コンソールからス	ナップインオ	

 証明書を登録するために管理ユーザでMMC (Microsoft Management Console)を起動し ます。

起動はスタートメニューより、"ファイル名を指定して実行"を選択します。



名前に"mmc"と入力して「OK」をクリックします。



MMC のコンソールから、「ファイル」から 「スナップ インの追加と削除」を選択します。

10 補足

スナッブインの追加と剤除	? 🔀
スタンドアロン 拡張	
このページを使ってコンソールにスタンドアロン スナップインを追加または削除します。	
スナップインの 追加先 S2:	
4	
道加(D)	
OK **	いセル

スタンドアロン スナップインの追加 🛛 ? 🔀			
	利用できるスタンドアロン スナップイン:		
	スナップイン	ベンダ	
	🗃 ディスクの管理	Microsoft and VERITAS So	
	🚊 デバイス マネージャ	Microsoft Corporation	
	🖉 パフォーマンス ログと警告	Microsoft Corporation	
	フォルダ	Microsoft Corporation	
	🗊 ポリシーの結果セット	Microsoft Corporation	
	■リムーバブル記憶域の管理	Microsoft Corporation	
	🕵 ローカル ユーザーとグループ	Microsoft Corporation	=
	 具 共有フォルダ	Microsoft Corporation	
	圖 証明書	Microsoft Corporation	~
	- I兑8月		
	証明書スナップインを使うとユーザー、サービス を表示できます。	、またはコンピュータの証明書ストアの内	容
		5	
		<u>追加(A)</u> 閉じる(Q)	

証明書スナップイン	
このスナップインで管理する調理月書:	
○ ユーザー アカウント(M)	
○サービス アカウント(S) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
	6
	< 戻る(B) 次へ(W) キャンセル



「追加」をクリックします。



5 「証明書」を選択し、「追加」をクリックします。



6 「コンピュータ アカウント (C)」を選択し、「次へ」を クリックします。





10 コンソール1 ファイル(E) 操作(A) ← → E: 図 I 10 コンソール ルーI	表示(V) お気に入り - 日 日 日 日 日 日 日 - ¥証明書(ローカル コ	 ウィンドウW ヘルブ(!) ウィンドウW ヘルブ(!) ウジェータ)半信頼されたルート証明4 	
 □ ジランドルトート □ 御 証明者 (ロー) □ 1 (日本) 	bルコンピュータ エレート証明限期 すべての5スク(5) 表示の ここから新しいウィンドウ(新しいなスクパタト表示)(最新の情報に更新(5) 一覧のエクスポート(1). ヘルプ(5)	BitTSE / 9 BAREOK Hone - BAREOK HONE - BAREOK - BAREOK BAREOK - BAREOK BAREOK - BAREOK BAREOK - BAREOK BAREOK - BAREOK WHIT SocureNet CA Class B WHIT SocureNet CA SGC R. 1 Hitosto Class A Persone	36175 Constant State Constant State Constant State Constant State State Constant State State Constant State Constant State Constant State
証明書をストアに追加し	.ます。 -		



「ローカル コンピュータ」を選択し、「完了」をクリッ クします。



MMC にローカルコンピュータの証明書ストアが表 示されます。

9

「証明書 (ローカルコンピュータ)」の「信頼された ルート証明機関」の「証明書」を選択した状態で右 クリックメニューの [すべてのタスク]から [インポ ート」を選択します。



証明書のインポートウィザードが開始されますの で、「次へ」をクリックします。





証明書のインボート ウィザード 🛛 🔀
インボートする証明書ファイル インボートするファイルを指定してください。
ファイル名(E)。 C¥Program Files¥VVAULT¥VVAULTRootCA.cer 参照(R)
注意: 次の形式を使うと 1 つのファイルに複数の証明書を保管できます: Personal Information Exchange- PKCS #12 (PFX,P12)
Cryptographic Message Syntax Standard- PKCS #7 証明書(P7B) Microsoft シリアル化された証明書ストア(SST)
13
< 戻る(四) (次へ(10) キャンセル

証明書のインポート ウィザード
証明書ストア 証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。
Windows に証明書ストアを自動的にご選択させるか、証明書の場所を指定することができます。
○証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する(型)
●証明書をすべて次のストアに配置する(P)
証明書ストア:
信頼されたルート記的機関 参照(R)
14
〈戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

11 インポートする証明書の選択画面にて、「参照」をク リックします。

12 ファイル選択ウィンドウにて、VVAULTのインスト ールフォルダ直下にある証明書ファイルを選択し、 「開く」をクリックします。



証明書ファイルが選択されたら、「次へ」をクリック します。

14 インストールする証明書ストアとして、「証明書をす べて次のストアに配置する」を選択し、証明書ストア として「信頼されたルート証明書機関」となってい ることを確認し、「次へ」をクリックします。







5 ウィザードを完了するため [完了]をクリックします。

16

MMC 上に 「正しくインポートされました」というメ ッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。

17 信頼されたルート証明機関に [VVAULT Primary Certificate Authority] が追加されていることを 確認します。

> 以上で、VVAULTのルート証明書がインストールさ れ、クラウドバックアップサーバへ接続ができるよ うになります。





東京都新宿区山吹町347 藤和江戸川橋ビル6F http://www.orega.co.jp/